October 25th 1902.

REPORT OF THE SERICULTURAL ASSOCIATION OF JAPAN.

NO. 124.

大日本蠶絲會報

第百貳拾四號

明治卅五年十月廿五日

（明治三十七年八月二十五日第三種郵便物認可）

目次

●論說
●蚕業講習所に於ける蠶絲業講習生の急務　農學博士　酒勾常明
●蠶絲業改良會に於て　小野光景
●蠶兒飼育中に於ける微弱なる溫度の降下　羽田桂之進
●蠶兒飼育に及ぼす結果の關係　農學士　田中右輝
●蠶兒の休眠と溫度との關係　林　一作
●蠶種の秋蠶と春蠶との差異　ワンベール
●蠶種の毒素は溫度の增加に伴ふ　村瀬歲藏
●桑葉の病理（英文）　農學博士　鈴木梅太郎

●雜錄
●米國製絲機械所蠶絲試驗報告（輸送中傷害を受けたる組織物に就て）●風穴與蚕（集慢蚕風穴）●長野縣地方製絲川流雜に就て

●統計
●明治三十五年八月中生絲類及組物類輸出入前年對照表●蠶絲類及絹蠶種出入類表

●問答
●蠶種問答●蠶室內の殺菌●蠶の飼料量に就て●賣買問答●給桑方法●風穴に就き質問●蠶の貯蔵方法●蠶の貯蔵に就き質問●蠶種製造に就き質問●蠶種の件に就き質問●蠶種の件に就き質問●乾燥箱の件に就き質問

●蠶況
●結繭市場●繭育市場●里昂市場●上海市場

●外報
●米國の養蠶●本年世界收繭額の概況●蓖麻の養蠶事業●清國重慶府の蠶業●歐米各國蠶絲消費近況

●雜報
●組織に就て●工場法案●製糸工場法案と生糸檢査料●蠶種檢査法案●蠶種檢査に就て●蠶の絲況●工場法案に就て●蠶業檢査上の注意●蠶業檢査下の注意●第三回蠶種品評會●製糸家の卒業式●地方委員の嘆託●多賀蠶業會●蠶業會支部●蠶業會支部●蠶業會支部

農學博士鈴木梅太郎君著

伊國及匈牙利 桑樹栽培法

實價郵稅共前金二十五錢　會員金二十錢

右は目下歐洲留學中の農學博士鈴木梅太郎君歐洲最要の養蠶國たる伊太利及匈牙利國に於ける桑樹栽培法の調査を農商務省農務局にて印刷に付せられたるものなるが斯業上頗る裨益ありと認め本會特に請ふて允許を得當業者諸君に頒つことゝなせり有要の諸君は部數限りあり至急御申込相成たし

大日本蠶絲會

●品切ニ付禀告

質問應答錄　第一編

右ハ豫テ本會ニ於テ編纂シ會員諸君ノ希望ニ應シ頒布致居候處最早品切ニ相成追テ第二編編纂ノ上ハ更ニ廣告可致候間此段禀告候也

大日本蠶絲會

●本報定價　一冊　金拾五錢　一ヶ年分　前金壹圓五拾錢

明治三十五年十月二十五日印刷發行
明治三十五年十月二十五日印刷發行
東京市神田區美土代町三丁目二番地
編輯兼發行人　小池市松
東京市神田區美土代町二丁目一番地
印刷人　島連太郎
東京市神田區美土代町二丁目一番地
印刷所　三秀舍活版所
東京市神田區美土代町三丁目二番地
發行所　大日本蠶絲會
電話番號本局一千四百七十三番

●世界無比最大發明製絲機

名自働式製絲機製作販賣廣告

特許第三〇九號製絲機

前生絲檢査所技師正七位四中文助氏發明從來本邦世界各國ニ使用シ來レル製絲機械ハ單ニ絲枠ノ回轉ト繭ノ煮沸ヲ助クルノミニシテ其他ノ繰作業ノ九分通リハ總テ工女ノ操作ニ依ラザルハナシ是レ製絲機械ニ云フベキ價値ナキモノナリ然ルニ本機ハ人工ニ籍ラズ全ク機械ノ動作ニ以テ精良ナル生絲ヲ容易且迅速ニ繰製シ得ル機械ニシテ其効用ノ著大ナルコト左如

●繰量ハ工女ノ省略シテ多量ノ生絲ヲ容易ニ繰製シ得ル事（自働繰足裝置ノ作用ニ依リ繰絲ヲ爲スガ故ニ其一絲ノ繰量ハ工女一人一日ニ付貳百五拾匁乃至參百匁即チ普通ノ繰作業ノ五倍以上ヲ得ラル）

●二生絲ノ纖度均一ニシテ色澤純良齊一ナル事（デニール法ハ感針器ノ作用ニ依リ細太共ニ自在ニシテ其差ハ僅ニ繭絲一纖度ニ即チ貳デニール內外ニ止マル）

●三生絲ノ抱合圓滑ニ密着シ强力伸度十分ナル事（一種新ノ自働撚糸器ヲ以テ自在ニ撚數ヲ一定ス）

●四生絲ノ歩上リ多量ニシテ節節ヲ除去スル事（求緒裝置ノ作用ニ依リ繭層ヲ損傷セザルカ故ニ絲目ヲ減セザルコト又一種獨得ノ精緻ナル節扱器及接緒作用ニ依リテ大小類節ヲ除去ス）

●絲綛ノ量ハ一定スル事（絲量凡拾匁ニ至レバ重錘ノ作用ニ依リ自ラ回轉ヲ止メ一定ノ絲量ヲ得セシム）

●二參三等ノ下繭トヨリ雖自在ニ繰製シ得ラル、事

本機ハ全部金壹千圓ニシテ從來使用セラル、蠶乾燥裝置付拾貳臺一列金參千圓

第壹號大蠶小蠶絲

第貳號小蠶絲

定價

●右拾貳臺以上ハ何十百臺ニテモ此割合ヲ以テ連續シ得ラルヽモノナリ

●本機ハ拾貳臺一列ニ付工女二名乃至三名ニシテ一日（拾貳時間）ノ繰絲量ハ壹貳百目乃至壹貳貫八百目トス即チ普通機械ノ如キハ僅ニ壹年乃至壹年半ノ利益ニ依リ優ニ回收セラルベシ

●工女ハ求緒工女三名繰絲見廻リ工女二名乃至三名ニシテ一日ハ普通器械製絲ノ五分ガ故ニ該器械ニ要スル固定資本ノ如キハ僅ニ壹年乃至壹年半ノ利益ニ依リ優ニ回收セラルベシ

參拾人繰ニ相當

五分ノ一

電話新橋三二〇四番　電信略號〇ナカ

東京市芝區田町四丁目壹番地　㊥圓中商會

○講習生募集

今牧養蠶講習科別科生募集ニ付キ志願者ハ左記事項了知ノ上來ル十一月十日マテニ履歴書及身體檢査證ヲ添ヘ管轄方廳ヲ經テ左ノ區域ニ從ヒ東京又ハ京都蠶業講習所長ニ宛テ願書差出スヘシ

明治三十五年十月

東京府北豐島郡四ヶ原
京都府葛野郡衣笠村

東京蠶業講習所
東京都蠶業講習所

一　志願者ハ品行方正ニシテ在學中家事ノ係累ナク志願者身體檢査規定ニ合格セル者ニシテ左ノ資格ヲ有スル者タルヘシ

一　滿二十五年以上ノ者

二　三箇年以上養蠶ニ從事シタル者

三　中學三年生相當以上ノ學力ヲ有スル者

二　三箇年以上其科目左ノ如シ

一　墓集試驗ハ本年十二月中地方廳ニ於テ執行ス

二　蠶法（本殺）

三　身體作文（別ニ定ム）

一　身體強壯ニシテ左記ノ各項ニ抵觸セサル者タルヘシ

身體強壯ニシテ結核、喀血、癲狂、癲癇、梅毒、傳染性皮膚病其他著シキ傳染性疾患アル者又ハ心臟ノ著シキ疾患、肋膜炎後ノ障害甚シキ者、其他働作ニ堪ヘサル者

一　發育不全ニシテ薄弱ナル者、高度ノ脚肪、肥滿ナル者、四肢ノ著シキ彎曲又ハ不同或ハ甚シク筋肉薄弱ナル者、手指ノ缺損若クハ畸形ナル者、下肢靜脈ノ怒張著シキ者等總テ働作ニ堪ヘサル者

一　精神ノ異狀、言語蹤害又ハ甚シキ吃吶アル者

一　兩眼ノ視力妨アル者又ハ色盲アル者但シ視力ハ眼鏡ヲ用ヒテ調節シ得ル者ハ此限ニ在ラス

一　片耳若クハ兩耳ノ聾又ハ低聲ヲ聽取シ難キ者

尙ホ講習規程要望ノ者ハ郵券二錢封入ノ上申出ツヘシ

強健無毒

免疫性春蠶種販賣

又昔白玉青熟　販賣要項御申越次第送呈ス

養蠶傳習生徒募集志望者ハ規則書送ル

群馬縣多野（高山社分教場）郡美土里村　**東涯園製種部**

For Sell,

The Strong, Angoboren Immunitaet and Single hatching Silk-worm Seeds.

The guidanee of the Avocation will be send by request.

To-Gai-Yen, The Silk-worm Seeds Factry,
Takagoma, branch office, Midorimura
Tomojun, Gunmaken, Japan.

●農産共進會開催廣告

日本農民會第八回農產共進會ヲ本年十一月二十日ヨリ十一日兩日間東京府北多摩郡小平村ニ開設候ニ付會員及篤志諸君ニモ多數御出品アランコトヲ乞フ

日本農民會事務所

東京府北多摩郡小平村小川

日本農民會第八回農產共進會規則摘要

●出品　種目ハ米麥繭（以上壹升）蠶種（壹枚）●出品受人期限ハ本年十一月十日迄●照會及出品物郵送ノトキハ武藏國小平局共進會事務所宛●優等品ハ左ノ四等ニ區別シ褒賞ヲ授與ス（壹等賞）三組木盃（貳等賞）同（四等賞）褒狀●出品物運賃ハ出品者ノ自辨トス●

桑苗

善良品安價ニ發賣仕候間御入用ノ御方ハ御申越次第代價表送呈仕候

愛知縣三河國幡豆郡西尾町十一番地

博農園渡邊萬吉

乾燥裝置之一大發明代價大割引販賣

寫寮特許第五千六百七拾四號

○新式乾燥裝置

壹圓　同　壹圓八百五拾圓　割引代金三百四拾圓
同　拾八円　同　五百　同　七百八拾圓
同　拾五円　同　七百五拾圓
同　拾　同　九百　同
同　拾　同　七百　同

驚ク可キ好結果ヲ得タル最付属品ハ特許ノ發明ニ於テ有益ナル確認シタル製品ハ今日世間ニ驚ク可キ一大發明ヲ爲シ今日ノ製作中ノ

多き樣である、下作をなさぬ方は桑の爲に宜しいではありませうが併し桑、下作兩方共に案外良く出來る、是は必竟地味の肥沃なる爲であつて日本にては倣ふ事は困難であると考へる、然し乍ら桑の仕立方は我國萎縮病豫防の爲に大に學ぶべき點があると思ふ、是に就ては杭州に滯在して居る練習生關貞江に話して術を究める事に注意を與へた。

養蠶　桑の栽培に反して養蠶術の拙劣なる事は能く人の知る所であるが、其主因は蠶種の不良なると飼養の不衛生的なるとにある、故に改良の餘地は綽々としてある、即ち今日天候不良の爲に凶作する所のものは大概救濟する事は出來るのである、本年は清國養蠶の大凶作であつたが、武昌及杭州に於ける日本教師の養ひたる蠶兒は健康に養育して充分なる收繭を得た、併しながら支那に於て養蠶改良が普く實行さるゝ事は前途遼遠であると考へる、何となれば養蠶の要訣は蠶兒を健全に養育せしむる事即ち衛生にある、例とへば厚飼を改むるが如き、蕪沙を除くが如きは皆衛生の理に出りて敎えねばならぬとであるが、彼等人間自らも衛生の何たるを解しない、即ち陰濕なる空氣の流通惡しき密屋中に群居して毫も不潔と清潔の區別を解せない位の有樣であるから、到底蠶兒の衛生論の理解さるゝは一朝一夕の事ではあるまい、寧理を說かず利を示すと云ふが如く形に於て敎ゆる事が出來るならば其方が捷徑であるかも知れぬ。

製絲　に就て最も感服したのは何れの工場を見ても六口繰器械で其內實際五口を使用し居ること、である、二口や三口を繰る製絲場は一つもない此は繭質の佳良と器械の精巧なるとに基くであらふ、此點は我國を顧て遺憾に堪へなかつた、尤も是は歐洲人の經營に係る器械製絲場の觀察であるが、支那人の從事する工場又は從來支那風の製絲は器械は粗雜で管理は不規律で技術は拙劣であるに違ない、何となれば其產出する生絲の粗惡は之を證據立て居る、併しながら製絲は支那の婦女に最も適當して居る業務である、何となれば動作を要する工業は例の纏足婦女には困難であるが、製絲は椅子に腰をかけて僅する仕事であるから少しも差支はない、今一つの殺繭乾繭の日本よりも較へ良く行はれて居る事である、即ち產繭地方に諸製絲場の乾燥室が設置されてある、其他獨立の乾燥營業をなす者もある、依て製絲場に使用する繭は孰れも完全なる工程を施されたるものである。

蠶業教育　此は武昌の農務學堂及杭州の蠶學館に就て觀察したる一班である、武昌は中西曾熊、杭州は前島次郎、西原德太郎の兩人擔當して居る、杭州には中學校を新設するの經費なき爲に、蠶學館を潰すの議論が出て其結果同國の在來法と蠶學館の改良法との公平なる比較試驗を行ふ事になつた、然るに湖州から來た在來法の名人は失敗をして夜逃をなし、蠶學館卒業の者は非常なる好果を現はしたと、それであるから多分繼續する事になつたであらふと思ふ、概して養蠶の敎授は直に收獲する繭其物に結果を顯はすから支那人に對しては比較的呑込み易き方である。

韓國の蠶業　韓國には昔から多少の養蠶は行はれてあつた、併しながら幼稚中の幼稚なるものである、水原地方にも養蠶する村があつたが、桑樹は野生の脊せたる古木であつた、此邊の繭を試驗の爲め繰製した人の話に、繭の外層から逐ひ通して繭を見得る位で一升の繭から三匁五分位の絲量を得るに過ぎないと云ふ事である、併し朝鮮は傾斜地多く氣候は乾燥するから養蠶絲業を勸める事は最も得策であると考へる、嘗て我國の駐在公使であつて今中樞院の議長たる金嘉鎭氏は頗る蠶絲業に熱心で、自分が晩年の事業として國家の爲蠶絲業の發達を圖ると謂つて養蠶及製絲の試驗に着手して居つた、此は洵に善き着眼であるから余は大贊成を表して置いた、又農商工部でも蠶業課を設けて西ゟ原卒業の韓人三名に講習を遣らせて居る、唯韓國の蠶業上工夫を要するものは蠶室である、同國人の寢食をなす家屋は煙突付の土屋であるから空氣の流通は甚不良で光線の透射は不充分である、されば土で農家は貧乏で別に餘使なる蠶室を建つるにも許さない、又材木に乏しいから日本風の木造の家を築くことも困難である、畢竟現在の土屋で蠶を飼ふことを實驗研究をなすより外に道はなからふ、又桑の仕立方は進步したる刈桑法抔も敎へ萎縮病が起り初めては大頓挫を來すから寧容

易なる立木作りか高刈法を授くるを得策と考へる。』要するに韓國の蠶業は間接と直接とを問はず日本の指導を待つにあらざれば發達は困難であらふ、清國現在の蠶業は左程恐るべき狀態でもないが、土地は廣大で地味は肥沃、氣候も温和に自然蠶業に適して居る之に加るに日本人の蠶學教授、歐洲人の製絲業經營の如き改良の動機があるから、頑夢を覺醒する の時代が早晩來るに相違ない、故に日本の蠶絲業者は之が機先を制すると云ふ事と、之を利用すると云ふ事に就て工夫を廻らさねばならぬと思ふ。

●蠶絲業調査會設立の急務

大日本蠶絲會特別會員　小野光景

生絲貿易商として横濱市の名望家として有名なる小野光景氏は多年蠶絲業調査會の設立を唱導せらるゝの人なり、猶至一日氏を訪ひ其意見を叩き、記して以て左に掲ぐ文責編著の罪一所なり。

余は多年蠶絲業調査會設立の必要を唱道するものなり、之が爲めには百忙寸陰なきの身を以て時の大臣次官を農商務省に訪ひ、其設立を迫りしは幾回なるを知るべからず、而して顧みられざりき、去て同志と共に貴衆兩院に請願せり、兩院は容れて之を通過せり、然かも何等の反應を見ず、進んで貴衆兩院議員に說く所あり、兩院よりは建議案となりて議場に現はれ共に大多數を以て可決せり、此に至て政府は聊か顧る所ありしが農商務省に蠶絲業諮問會を開て蠶絲調査會に代へたり、然れども未だ以て吾人が多年渴望せる目的を達せりと云ふべからず、果せる哉諮問會自身が諮問會を以て滿足せず滿場一致を以て更に蠶絲業調査所設立の建議をなせり、此に至て如何に執拗なる當局者と雖も瞿然悟る所あるべきを想へり、然れども第十六議會の開會に至るや遂に何等の企畫を見ざりき、此に於て議會は一は更に設立の建議をなし、一は何が故に設立せざるやを質問せり、然れども尙政府の措置に至ては寂として聲なし。

抑も蠶絲業調査會設置の事たるや、當業者は擧て之を熱望し各地の斯業團體よりは建白請願其數を知らず、而して立法の大權に參與し豫算の鎖鑰を握る所の貴衆兩院は之が設立を迫れるに拘らず、政府當局の之に對して冷淡なること此の如きは果して何の理由ありて然るか、曾て當局者の云ふ所を聞くに、蠶絲業調査の機關は農商務省に其設備あり更に特別の施設を爲すの要を認めずと、然り農商務省農務局の一課に蠶業事務を掌る二三の主任者あるを聞く、然れども國家の經濟に關する大物產たる蠶絲業に對しては其規模の小なるに驚かざるを得ず、其他農商務省所屬に蠶業講習所あり、生絲檢査所ありと雖も、一は蠶業の敎育及試驗を主とし、一は生絲の檢査を專らとするものなり、是等に對し常務以外に於ける更に重大なる調査事項を托せんとするは酷なりと云ふべし、於茲乎吾人の唱道する蠶絲業調査機關の設備を要する所以なり。

吾人が所謂重大なる調査事項とは何ぞや、一々此に屈指するの暇あらずと雖も、蠶絲に關する敎育普及の方法、桑園除害の方法、桑園と夏秋蠶の關係、蠶兒種類の改良と統一の方法、蠶病驅除豫防普及の方法、殺蛹貯繭の方法、生絲製造の改良及經濟的關係の調査、工場取締に關する調査、清國其他海外に對する蠶絲業の方針調査、統計の確實を期する方法の調査等其最も重大にして緊要なるものなりとす、是等の事項一、として國家の除替に訓する大問題ならざるなし、須らく斯道の學者實業家及經濟法律の專門家を一堂に會し、充分精密の調査を遂げ、以て國家百年の大計を確立せざるべからざるなり。

夫れ然り然れども本邦現時の財政は頗る窮迫を極む、若し此機關を設備するに於て巨萬の資を要するものならしめば、之が設立に躊躇する所あるも又止むを得ずとなすべし、然れども今調査會を設置せんか、一ヶ年五萬圓以內を以て足れりとす若しそれ施設の方法如何に依りては一萬圓以內尙可なり、一ヶ年二億圓內外の產額を有し一億圓の輸出品たる蠶絲の業に對して、一萬乃至五萬の調査費を支出するの是非は殆ど問題となすに足らざる也、政府は一ヶ年五六百萬圓の輸出をなす處の製茶業に對しては年々七萬圓の補助を與へつゝあり、而して我が蠶絲業に對して冷淡なる此の如きは抑も事の輕重大小を顧みざるものゝ如く其眞意果して何邊に存するや怪訝の至りに堪へざるなり。

世に當業者の請願と云ひ、議會の建議と云ふもの、或は一部當業者の私利を目的とし、或は一地方の利

害を問題とするもの甚だ多し、蓋し此蠶絲業調査會に於ては、一部一地方の利害問題にあらず、國家百年の大計を審査討究し以て國利民福を增進せんとするものなり、其事の公正にして其目的の美なる、千百の請願建議中恐くは其比を見る稀なるべし、しかも一二當局者の贊成を得ざるが爲に國民其志を達する能はざるは實に慨歎の至りならずや。

余や本會に會員たる日尙淺しと雖も、本會は實に本邦蠶絲業の改良發達を圖るを以て目的とし、其業務中蠶絲業に關する諸般の調査をなすことを標榜せり、即ち所謂蠶絲業調査會の如きは主として本會之に當るを以て當然也と云ふべし、然れども本會現時の資力を以て此大事業に當らんとするは能くし難き所なりとす、況んや蠶絲業調査の如き大任は一私會に負荷せしむべきにあらず、宜しく國家の事業として施設すべき者なりと信ず。當局者にして尙覺醒する所なからんか止むを得ず、本會は全國七千の會員と共に進んで其任に當らんことを期すべきなり。

然れども今の農商務大臣は產業の發達に熱中せらるゝと聞く、必ず調査會の必要を看破し、輿論の熱望する所を容れ、本年の第十七議會には之が豫算を提出し、吾人多年の希望を達せしめらるゝならんことを信ずるなり。

●工場法案に就て

大日本蠶絲會
特別會員　羽田桂之進

政府は又工場法案の起草に着手し、來期議會に提出せらるべしとは曾て聞く所にして、其內容が如何なる熟に存するやは未だ詳細に知ること能はざれども、何れにせよ當業者に對し至大の關係を有する事柄なるを以て、其內容の發表せざる今日に於て世間既に是非の議論あるは無理ならぬ次第と云ふべし、余輩も亦聊か卑見なき能はず左に其概要を陳述せんとす。

全國各種の工業を通じて之を一法の下に律するを得べきや

近來我邦工業の進步に伴ひ大工場の增加を見るに至れるは、斯業の爲め國家の爲め喜ぶべき所なりと雖も、其發達に隨ひ多數の工場中には職工の衛生待遇等に不良を免れざるものあるべし、故に是等に對し當局者が其職權上よりして監督の法を講ずるは余輩の異議なき所なり、然れども我國の工業は發達進步せるとに云ふものゝ、之を舊時に對比したる觀察にして、歐米の夫れに比すれば甚だ幼稚の域にあり、工業の方法、工場經濟、工業資本及收益等實に感れの位地にあるものと云ふも可なり、最も數千の職工を集め數百の馬力を用ふが如き大規模の工場に於ては、工場整理の爲め諸種の制度を設け諸般の設備を要すべしと雖も、本邦製絲業の如き家內工業の有樣に依れるものに在つては、法律上の干涉保護は却て情誼和協の舊慣を破り、權義紛爭の發生を促かすに過ぎざるのみか、折角發達し來れる工業に一頓挫を與ふるの結果を來すに至るべし、故に本邦製絲業の如きは其弊害の認むべきものゝみに對して、特殊の法律を以て之を排除せらるゝの手段を取らるゝを可とす、故に一法律の下に各工場を總括し之を監督せんとするが如きは、我國工業の狀態に照し實地行はるべからざるものと云ふべし。

製絲業者には工場取締の必要ありや

本題の如き質問あらば則ち答へて謂はん、同業者間職工誘拐の如き工場衛生の如き等取締の必要あるべし、左れども彼の歐米に行はるゝが如き嚴酷にして單に職工の保護を目的として制定せられたる如き法規の必要なしと信ずるなり、一大規模を爲せる鑛山紡績、製鐵の如き事業に至つては、其實際に適合せるものならば或は法規に依り之を律するの必要あるならん、左れども西洋各國の工場法の翻譯的法規にては我國の實狀に適合せざるべしと信ずるなり、聞く歐米各國にても是等の法律を施行せらるゝに當つては、當業者と協議して其工場の發達を害せざるの程度を計り制定せらると云ふ、我政府當局者も是等の法を制定せらるゝ場合には篤と當者筆に諮詢せられんことを切に希望するものなり、今回制定せられんとする工場法の內容は仔細に知るを得ざれども世間傳ふる所に依れば、

一工場建物の規定
一工場衛生の規定
一勞働時間の規定
一機關檢査法

一　癈疾者保護法
一　徒弟制度
一　工場相互間の關係
一　工場と非工場との區別
一　工場監督官の事

以上各項の大方針を法律に依り之を定め、細目は命令等に依らるゝやの說あり、余輩は數十年間製絲事業の爲め聊苦辛せるものなるを以て、各項に就き假りに卑見を略記し、其制定前に當つて宜しく立法者の熟考を請はんと欲する次第なり、是れ獨り余輩製絲業者の利害に關する所大なるを以ての故のみにあらずして、職工保護の目的を以て制定せる法規の或は職工をして其收得を減少し、生計に困むの結果を生ずるに至るなきかを杞憂するを以てなり。

工場建物の規定

建築物は崩壞若くは非常の危險なきまでに修繕せしめ、而して向後建築せんとするものは指定規則に準據せしむるの趣旨ならん、其の目的とするところ可なり、

左れども本邦の建築は多くは木造物にして、其建築法の如きも舊式に屬するを以て、其程度如何に依り金利の高き我邦に於ては到底行はる可らざる者なりとす、而して其改修を爲さしむる部分等も相當の時日を附與し、可成其業務に差支なからしむる樣參酌せられんことを希望するものなり、且つ新規企業者に對しても同樣の方針を取られんことを欲するものにして、從來經營せる工場にして多少の不備は免れざるも、別段甚しき危險の恐れあるものは蓋し少なからんと信ずるなり、特に嚴重なる規程を設け監督者をして杓子定規に屬行せしむるが如き必要は敢て認むるに苦むなり。

工場衛生の規定

此の頃は一言すれば工場又は職工寄宿舍內、空氣の汚れざる樣に設備を爲し空氣を流通せしむるにあるならん、我製絲業の如きは是等の點に於ては甚しき不都合なしと信ずるなり、故に其程度如何による只最も窮屈なる定規一遍の規定ならざるを冀望するのみ。

勞働時間の規定

勞働者の家族的生活を破らざる程度に於て夜間就業の時間を制限し、殆んど虐待と稱すべき程度に涉れる長時間の勞役に服せしめざるに在るならんか、而して幼者傭使の年齡に制限を加ふるの說あれども、我製絲業の如きは年中間斷なきの事業にあらず、而して家內工業的の習慣に基き發達し來れるものにして、殊に前記の如き虐待又は身體の發育を妨ぐるが如き事實は曾て余輩の耳にせることなし、若し假令就業時間に或る程度以上制限を加ふるとせば、扨は其執務に對し嚴重の監督を加へ出來得る限り勞を取らしめざるべからず、如斯きは不文不律の家族的工場に數十年來慣れ來れる職工の能く耐ゑ得べきや否や、却て其勞働時間の制限されたるが爲め其收得を減じ、生計上に於て苦辛するが如き事なきか、是れ本邦職工の程度を參酌せられ度き點なりとす。

機關檢査法

此點は既に當局者が其職權上より隨時檢査を行ひつゝあるを以て足れりと信ず、且つ火夫の如きも學理に精しきものなきも、實地取扱の點に於ては甚しき不都合なかるべし、若し嚴正なる規律を設くるとせば豫め當局者は相當なる機關係養成所の如きものを設置し、全般の需に應ずるの設備を爲し、漸を以て之を律するにあらざれば不可なりとす。

癈疾者保護法

勞働の爲め負傷し癈疾となりたるものには相當の保護を與ふるは敢て異議なき處とす、只其相當と認むる程度如何に依るべきものとす。

徒弟制度

年少未熟なる徒弟を虐遇するの弊甚しきを以て徒弟を廢止するか、若くは一定の制限を設けらるゝやに聞く、是れ職工の自由を重ずるの餘りに出づるものにして、余輩の解する能はざる點なりとす、職工の自由を重ずるは理に於て可なりとするも、我製絲業の如き多少技術の養成を爲さゞるべからず、補助工女より一人前の工女に養成する迄の間に於て少からざる手數、歲月、費用を要せざるを得ず、若し徒弟年限を禁止して之を行ふと能はざるとせば、之が爲め從來一の弊害として認められたる同業者の工女誘拐の弊風は一層其度を高め之を裁制し得るの途なかるべきか、或は徒弟を廢止して工女養成所の制を設くれば可なりとするの說あるも、亦能く全般の企望を

充し得るや否や其疑なき能はざるなり、我製絲業の如き果して虐待の實ありや否や、吾輩は徒弟制度の全廢の如きは斯業上現況に照し斷じて不可なりとする所なり。

工場相互間の關係

工場と工場との間に互に聯絡して職工を束縛するの弊を矯め、勞働者の自由を害せざる程度に規束せらるゝと云ふ、本項の如きは我國工場には曾て類例なき事實ならんか、我製絲業の如きも亦如斯の弊あるを聞かず、職工取扱に就ては寧ろ緩にして往々不實意不德義の所爲あるも之を放任し、爲めに工場主の不經濟を來すの事實は耳にする所なり、其害なきに當り法を施すの必要又是れなきにあらずや。

工場と非工場との區別

抑も工場とは如何なるものなりや該法の總括監督すべき工場とは如何なる程度のものなりや、或は曰く其使用の人數に依り之を區別し、而して其人員の範圍に達せざるものは特別事情のあるものは其法に依り律せしむと云ふ、果して然らば實地錯綜施行の困難なる或は豫想の外に出てんとす、而して、實地弊害と、認むべき事實の多きものは大工場に多くして小工場に少しとなすか、是れ余輩の聞かんと欲する所なり、今我製絲工場の規模を見るに、三十三年度に於て（農商務省調査に依る）總數二千六百六十九個所の內、十人繰以上五十人繰以下のもの實に一千六百七十三個所の多きに達せり、若し單に職工數を以て制限せば半數以上は法の精神を貫徹し得ざるのみならず、兩者の間寬嚴を異にするが爲め、自から漸次發達すべき工場工業の進路を妨ぐるに至らんか。

工場監督官の事

本法施行に當り實地監督の任に當るの官吏は工業に對し相當の技能を有するの人たらざるべからず、而して命令の疎密監督の寬嚴に依りて其利弊を見るべく、只漫に理想を以て法規に拘泥し設備の完全を期し、營利事業の阻害を來すが如き事なきか、從來各地方に於ける機關檢査等に於て往々此に類せる干涉の爲め迷惑を感ずるの實例あり、故に其內容の如何を知らざるも特に本項に就き立法者の三思を乞はんとす。

以上世間傳聞する所に依り聊卑見を記せり、之を要するに果して以上記載せる如き方針と事項に依り立法せらるゝならば所謂工場法の目的を達するに至らざるべし、願ふに我國工業の發達は今尙ほ幼稚の時代にして歐米諸國の工場と日を同ふして語るべからず、而して立法者が施行せんとする法の精神は歐米各國に行はれつゝある法律を參酌加味せるものにして、方今我國の實情に最も不適當なりと思考する所のものなれば、故に工場法なるもの其名に美にして其實之に協はず、却て我國工業の發達を阻害するに至らんと信ず、且つや前說せる如く家內工業的の組織に依れる我製絲業の如きは暫く此の如き法律の範圍外に置かれんことを希望するものなり、是れ余輩斯業を經營せるの故を以て自己の利便を計ると云ふに非らず、其結果本業の發達を妨げ隨て我國維一の財源を枯渴するに至るを恐るゝを以てなり。

然れども余輩營業者の位置として全然之を非認するものにあらず、余輩は既に已に一二の弊害と認むべきものに對しては相當の法を設けられんことを希望せるものなり、其法の目的、精神にして余輩の希望に協ひ、而して假かに斯業上に急激の變化を來さゝる漸進的の態度を以て、强て既往に遡りて當業者を苦むるの愚を爲さず、而して將來の經營者に對しては豫め其方針を明示し、自ら之を做はしむるの趣意を以てせられなば、其結果は或は比較的宜しきを得るならん歟、政府の賢明なる篤と我國の實狀を精査し、我國の狀態に適するの法を制定せらるべしと雖も、其法案の所定如何は斯業に至大の影響を及すべきものたるを以て、余輩亦憂慮措く能はざる所なり、當局者亦余輩の微衷を納れ、廣く民間當業者に諮問し、而して後制定せられんことを切に希望す、且や方今本邦製絲業の經濟は頗年多少の困難を來し、經營苦辛其維持に努むる者亦少からざるの狀態あり、而して余輩製絲業者としては益々斯業の經濟を計り、伊、佛、淸國等と競爭場裏に奮するの策を採らざるべからざるは方今の急務なるを以て也、以上縷述せる數言の如き余輩の杞憂に了らしめば則ち斯業の爲め幸なりと云ふべし。

●蠶兒五齡中に於ける微弱なる溫度の降下か蠶繭に及ほす結果（承前）

佛國モンペリエー蠶業講究所長　ランペール

從來蠶兒の晩齡に於ける溫度の高低か繭に及ほすへき結果を研究したる諸學者は單に繭絲の分量及其性質を主眼として論及したるものゝ如し、故にポワシユー、ド、ソウバーヅユ氏は曰く五齡期溫度を列氏二十五度（攝氏八十）以上に昇すときは、蠶兒の老熟早きに失して蠶兒も繭も共に甚だ矮小なり、而して尙收繭額僅少にして且蠶繭甚不良なりと、ニーステン氏は曰く四齡迄は列氏二十度（攝氏七十七度）又は列氏二十二度（攝氏八十）の間に溫度を保たしめ、五齡に至りて列氏一度乃至二度（攝氏二度二）を降下するときは蠶兒は多量の絲分を生産すと論じたり、レーノー氏は尙正確に論述して曰へり、即ち溫度高きに過きて五齡期第七日目より絲繰を吐出するときは蠶繭輕く絲質脆弱なり、斯の如き繭を以て一基グラムの絲量を繰らんと欲せは十三基の繭を要す、し、然るに蠶兒をして九日目又は十日目に營繭せしむるときは、一基の優等なる絲を得るに十一基を以てせは足れりと。

一千八百九十八年に於て余は十三種と外に掛合種二種とを採りて試驗せり、即ち支那白繭種及黃繭種三種、歐州黃繭種及絲繭種二種、ペクダード白繭種二種、波斯白繭種六種及黃繭掛合種二種是なり、溫度を降下せし程度は一は前溫度攝氏二十一度（攝氏六十九度八分）に對して三度と他は前溫度攝氏二十四度（攝氏八十度）に對して六度なり。

之を試驗するに當り溫度降下の程度と其經過時間に從て、左の四類に分類して以て研究をなせり。

第一區（五齡の初期（五齡第一日及第二日）三度の下溫を受けたる蠶兒）
- A 黃繭種掛合雜種
- B 同

第二區（五齡の中期（五齡第四日及第五日）より三度の溫み受けたる蠶兒）
- C コルス產黃繭種一化性
- D アルプス產黃繭種一化性

第三區（五齡の終期（五齡第六日第七日及第八日）に三度六度の下溫を受けたる蠶兒）
- E 支那白繭種一化性
- F 支那黃繭種同
- g 波斯白繭種及絲繭種同
- H 波斯白繭種
- i ペクダード產黃繭種一化性
- j アルプス產黃繭種一化性
- k コルス產同
- l ヴォクリユーズ同

第四區（標準蠶中早熟蠶七枚のとき三度六度の下溫を受けたる蠶兒）
- m 支那黃繭及絲繭種一化性
- n バクダード白繭種
- o コルス黃繭種一化性

區別	目標	標準區	試驗區	差
第一區 繭の平均長 ミリメートル	三八、	三八、	三八、	〇、
繭の平均幅 ミリメートル	一九、一七	一九、一七	一九、一六	減 一/一〇
生繭の平均重量 グラム	二、四三〇	二、三二〇	二、四二〇	增 〇、一〇〇
乾繭の平均重量 グラム	〇、二八〇	〇、二八〇	〇、二八〇	〇、〇〇〇
絲量 グラム	〇、一八〇	〇、一八〇	〇、一八一	增 〇、〇〇一
第二區 繭の平均長 ミリメートル	三八、一一	三八、一一	三八、一一	增 一/一〇
繭の平均幅 ミリメートル	一九、一〇	一九、	一九、〇一	減 一/一〇
生繭の平均重量 グラム	二、〇一〇	二、二二〇	二、二二〇	增 〇、二一〇
乾繭の平均重量 グラム	〇、二二二	〇、二一〇	〇、二二二	增 〇、〇一二
絲量 グラム	〇、一八二	〇、一八〇	〇、一八二	增 〇、〇〇二
第三區（六度減） 繭の平均長 ミリメートル	三八、	三八、	三八、	〇、
繭の平均幅 ミリメートル	一八、	一八、	一八、	增 一、
生繭の平均重量 グラム	二、二二〇	二、二二〇	二、二二〇	增 〇、二〇〇
乾繭の平均重量 グラム	〇、二二〇	〇、二二〇	〇、二二〇	增 〇、〇〇〇
絲量 グラム	〇、一八一	〇、一八〇	〇、一八一	增 〇、〇〇一
第四區（三度減） 繭の平均長 ミリメートル	三八、	三八、	三八、	增 〇、〇〇四
繭ノ平均幅 ミリメートル	一九、	一九、	一九、	增 一、
生繭の平均重量 グラム	二、二二〇	二、二二〇	二、二二〇	增 〇、一二〇
乾繭の平均重量 グラム	〇、二二一	〇、二二〇	〇、二二一	增 〇、〇〇一
絲量 グラム	〇、一八〇	〇、一八〇	〇、一八一	增 〇、〇〇一
第四區（六度減） 繭の平均長 ミリメートル	三八、	三八、	三八、	增 〇、〇〇四
繭の平均幅 ミリメートル	一九、一一	一九、一一	一九、一一	增 一、
生繭の平均重量 グラム	二、二二〇	二、二二〇	二、二二〇	減 〇、〇二〇
乾繭の平均重量 グラム	〇、二二〇	〇、二二〇	〇、二二二	增 〇、〇〇二
絲量 グラム	〇、一八一	〇、一八〇	〇、一八一	增 〇、〇〇一
第三區（三度減） 繭の平均長 ミリメートル	三八、	三八、	三八、	增 〇、〇〇四
繭の平均幅 ミリメートル	一九、	一九、	一九、	增 一、
生繭の平均重量 グラム	二、二二〇	二、二二〇	二、二二〇	增 〇、一二〇
乾繭の平均重量 グラム	〇、二二一	〇、二二〇	〇、二二一	增 〇、〇〇一
絲量 グラム	〇、一八〇	〇、一八〇	〇、一八一	增 〇、〇〇一
全體平均 繭の平均長 ミリメートル	三八、	三八、	三八、	增 〇、〇〇四
繭の平均幅 ミリメートル	一九、一一	一九、一一	一九、一一	增 一、
生繭の平均重量 グラム	二、二二〇	二、二二〇	二、二二〇	減 〇、〇二〇
乾繭の平均重量 グラム	〇、二二一	〇、二二〇	〇、二二二	增 〇、〇〇二
絲量 グラム	〇、一八一	〇、一八〇	〇、一八一	增 〇、〇〇一

前表掲くる所の結果は正に一千八百九十七年の試驗の結果を確證するものなり、一千八百九十七年に於ける如く一千八百九十八年に於ても、亦飼育終了期前に於て平均三度半の下溫をなして以て繭の重量

に增加を生ぜしめたり、試驗蠶の生繭平均重量を標準蠶の生繭重量に比するときは、零グラム一五の增加を見るを以て、一グラムに付零グラム七七分の增加となるものなり、尙之を詳言せば飼育夆期間攝氏二十一度（華氏六十九度八分）又は二十四度（華氏七十五度二分）の均一溫度に依て飼育せられたる、一オンスの蠶兒か產出したる蠶繭の重量を六十基と假定せは他の室內に於ける同一分量の蠶兒にして、飼育終了期前に二度乃至三度の下溫を受けて、五齡期に於て長く存在したるものは其蠶繭の重量に大約四基の增收を生ぜしむへし、又或る場合に於ては尙是より五倍の增加を見ることあるへし、例とへは我試驗に於ける通常バクダード產の場合の如き是なり、此試驗に於ては五齡期の終に際し三度の下溫をなしたるに六十基に對し十二基の蠶繭の重量を增加せり、今一基の繭の價格を三法又は二法五十仙と看做すも、一オンスの蠶種を掃立飼育せる收繭に對しては著しき利潤（三十法乃至三十六法）あるを見るへし。

蠶室內の濕氣の狀態は殆んと同一にして、微弱なる溫度の降下の爲に特に蠶繭の水分を增加するか如き憂は絕て之れあらざるなり、此事實は我試驗に依り之を證するを得へし、即ち試驗蠶か結へる繭と標準蠶の繭と重量の比例は、生繭に於ても將た又乾繭に於ても大體に於て同一なりし、最も些細の點に至りては多少の差異ありと雖も、比較的少量なる繭に就て重量を計算するか故に、此種の試驗に於て往々ある實例の如く、其計算に多少の差異あるは免るへからさる數にして、乾繭の重量に依りて計算したる增加と、生繭の重量に依りて計算したる增加とは常に必すしも相等しきものにあらす、例とへは支那產E の場合に於て生繭の重量に依りて計算したる增加の百分比例は三なるに、乾繭の重量に依りて計算したるものは一五なり、又同國產E の場合に於ても乾繭の重量に依りて計りたる增加は七$\frac{1}{2}$なるに、生繭に依れるものは三なるか如し、然れとも此等の差異は最終の平均增加の場合に於て始めて補はるへし、即ち生繭及乾繭の重量を計算し得たる增加は殆んと兩々相等しと雖も、乾繭に於ては生繭に比較して僅微（七に對して八半）の多きを認め得たり。

茲に至りて蠶繭の絲量に增加を來すの事實は敢て疑を挿むの餘地なく、而して此增加は殆んと同一の比例を以て蠶兒及ひ絲樓に相及ほすことを明白なりとす、又重量の增加は蠶兒か降下溫度の感應を受くる時期に依りて差異あるものなり、左に下溫經過時間に由りて比較計算したる乾繭の增加重量の百分比例を擧くへし。

下溫程度及ひ時期	百に對する重量の增加
五齡初期（第一日、第二日）三溫度減	一五、
五齡中期（第四日、第五日）三溫度減	九、$\frac{1}{2}$
五齡終期（第六日、第七日、第八日）三溫度及六溫度減	七、$\frac{1}{2}$
上簇の際二溫度及六溫度減	四、$\frac{1}{2}$

下溫度繼續時間の長短か繭の成蹟に及ほすへき關係は尙ほ更に著しきものあるへし、之を正確に研究せんと欲せは、數多の蠶種を採りて初めは同一の溫度を與へ、又後に同一溫度の降下をなし、唯降下したる溫度の繼續時間のみを異にして試驗を施せは可なりとす。

六溫度の減度は三溫度の減度に比して更に大なる効驗を顯はさゝりし、一千八百九十七年に於ける四溫度半の減度は二溫度半の減度に比して多くの好果を收めさりしのみならす、反て繭の重量は多少劣れる觀あり、

蠶兒の性質又は其產地等の關係上同一種類の蠶種と認むへきものにして、而かも試驗中同一若くは殆んと同一の條件に依りて飼育せられたるものゝ內に於て、其蠶繭の狀體に多少の差異を生したるは少しく奇異の感なき能はす、例とへは五齡終期に於て三度の下溫を受けたるエロール產（j）蠶兒は、標準蠶と同一重量の繭を結成したるに、之と同一期間同一溫度にて飼育せられたるテルグス產（K）蠶兒は標準蠶兒に對し七分方重き繭を產出せり、又バクダード產蠶兒の（i）及ひ（h）は時間に僅々の差異ありたりと雖、溫度は兩者共に三溫度の低減なりしに前者（i）は二割方重き繭を生し、後者（h）は僅に四分方重き繭を生したるに過きさりき。

今產地別に從て蠶兒を支那、波斯、バクダード及ひエロール產の四類に區別し、其重量增加の平均數を擧くれは左の如し。

產地名	增加重量の百分比例
支那產	七、一分
波斯產	六、一分
ベグダード產	一二、七、一分

エロール產

試驗蠶繭は其重量の大なると同時に其形概して大にして絲層又濃密なり、又アルブス產黃繭二種及ひコルス產黃繭一種は其色澤鮮明にして且均齊なり。

溫度を下したる爲に上簇期は少しく遲延したり、今早熟蠶の上簇より晩熟蠶の上簇に至る迄の經過時間を延長するときは左表の如し。

種別	早熟蠶の上簇に遲るること	上簇の遲るること
五齡初期に於ける試驗	〇日	三日半
五齡中期に於ける試驗	一日半	一日半
五齡終期に於ける試驗	一日	二日

早熟蠶の上簇に於ける試驗　三日

溫度を下して五齡期を延長せしむるの利なることは上來記述し來りたる所によりて瞭なり、然るに玆に又利益に伴ふへき一の危險あり、即ち蠶兒の上簇するに從て不時の疾病を醸成すること是なり、故を以て病蠶の發生を防禦するに於ては育蠶終期に際して溫度を低下せしむるより、寧之を昇騰せしむるに若かさるへし、現に余か試驗に於ても五齡第六日目に三溫度の降下を受けたる蠶兒中、十五頭の病蠶を生し內六頭は斃死せり、故に蠶兒の晩齡に際して其生存を延長せしむるは場合により危險あるへきを以て余は如何なる場合に於ても必ず余の方法を實行することを勸告するものにあらす、要は場合に應する取捨を蠶業家諸氏に一任するのみ。

（完）

●蠶病と蠶兒の躰質との關係に就て

大日本蠶絲會技藝委員　農學士　林　驛　作

本邦の蠶業は近年長足の進歩をなし尙年を逐ふて擴張し繭產額は累年增加するの勢あり、從つて育蠶上技術の發達も又大に見るへきものありと雖も、少しく注意して其實況を査察するときは決して健全なる進歩發達に非ることを知るべし、何となれは繭產出額の增加は育蠶戶數の增加と蠶種揷立枚數の增加とに基因し、決して育蠶家技術の進歩に因るに非れば繭量は一昨三十三年度にありては平均七斗四升、三十四年度にありては平均六斗五升五合なり、然るに蠶種一枚よりは普通の飼育を行ひ普通の收繭をなさは少くとも一石以上の繭を得べきなり、近年育蠶の技術は益々進歩せりと謂ふに係らず、斯の如く收繭量の少なき理由は固より種々の關係あるべしと雖も其重なる原因は蠶病の流行に歸せざるを得ず。

蓋し蠶病には種々ありと雖も其多くは寄生物のために起るものなり、所謂寄生物とは蠶蛆、微粒子、硬化病菌及軟化病菌是なり、就中後三者は一般に微生物と稱するものにして著しき傳染性を有し恐るべき病原なりとす、而して寄生的微生物の增殖は其寄生すべき宿主の多少に關し、又溫度濕度等に關係すること大なり、近時育蠶家の普及せるため各地至る所に蠶兒は飼育せられ、又夏秋蠶の飼育も大に增加せるを以て、年中桑葉ある間は殆ど何れの時に於ても蠶兒を見ざるはなし、此を以て蠶病の病原的微生物は己が宿主を見出し易く其生活に極めて便利なるべし、殊に夏秋蠶の時期は溫度高く濕氣多きを以て微生物の增殖に好適し其迅速なること實に驚くべし、斯の如き關係により病原的微生物は現時各地に蔓延し恐るべき害毒を逞ふしつゝあり、今にして之れが撲滅を行はずんば將に如何とも爲すこと能はざるに終らん、病原的微生物を殺滅して之が驅除を計かる手續は蠶病消毒法と稱し、今や各地に實行せられ或は將に勵行せられんとす、余は以上の理由によりて其普及の一日も速かならんことを希望す。

然りと雖も蠶病の原因は極めて複雜にして種々の事情に關係するものなり、故に多くの蠶病は微生物が蠶体に寄生するに因りて起ると云ふと雖も其寄生たる常に同樣に行はるゝものにあらず、事情によりて其多少に差異あるものなり、就中微生物寄生の難易は宿主たる蠶兒の体質に關係すること甚だ大なりとす、這は既に數年前より歐洲學者を初め本邦諸學者の唱導せられたるところにして敢て余輩の說を要せざるが如しと雖も、其關係の如何なる程度にまで相及ぼすものなるやを明かならしめん爲め余輩の實驗

せる一例を擧げ聊か當業者の參考に資せんとす。

余は飼養の方法を異にせる蠶兒に軟化病菌を添食せせしめ其發病の如何を調査せんとするの目的を以て、蠶兒搬立以來五區を設け、一は給桑不足育とし、二は過濕空氣中育とし、三は溫度激變育とし、四は除沙回數減少育とし、五は標準育として普通の飼育を行ひたり、右の蠶兒四齡盛食期に際し各區より五十頭宛を選出し、之に軟化病菌中石渡氏卒到病菌を桑葉に塗布したるものを同樣に給與して其發病如何を檢したり、然るに過濕空氣中育區よりは僅に一時間半を經過せる後既に十八頭の斃蠶を生じ、二時間後に於ては二十五頭、三時間後に至りて悉皆斃死したり、其他の各區にありては未だ一頭だも斃るゝものなかりしが、四時間を經たる後給桑不足育區より十九頭、五時間後に八頭、六時間後に十二頭、十二時間後に五頭の斃蠶を生じたり、其他の三區にありては二晝夜間餘を經過せし後初めて斃蠶を出したり、其數は溫度激變育區より三十頭、除沙回數減少育區より仝じく三十頭、標準育區より二十三頭なりし、其翌朝に至りて溫度激變育區より五頭、除沙回數減少育區より十一頭、標準育區より七頭の斃蠶を生じ、同日夕刻に至りて又々各區より數頭の斃蠶を生じたり、而して遂に該病の感染を免れ能く發育を遂げ得たるものは、給桑不足育區にありては六頭、溫度激變育にありては八頭、除沙回數減少育區にありては六頭、標準育區にありては十二頭なりし。

此に由て是を觀れば各區にありては其發病の多少に差異あること明かなり、其差たる全く飼育の如何に關するものなれば蠶體體質の强弱に原因するものと曰はざるべからず、而して又病原菌の存在にありては例令体質の强健なる蠶兒なりと雖も、其大部分は之に感染するを免れざること上述の如くなるを以て、此等病原物驅除の必要なること毫も疑なし、此を以て余は固より蠶病消毒法の普及の速かならんことを望むと雖も、之と同時に余は蠶兒飼育の決して忽諸に付すべからざることを育蠶家に對て忠告せんと欲するなり。

●春夏秋蠶種鬪審査に就て

（大日本蠶絲會第十一回大集會演說）

大日本蠶絲會
通常會員　田中右一

諸君私は長野縣蠶種同業組合聯合會より派遣せられたる蠶業視察員の田中右一と申す者でございます、私が此度本會に出席して名譽ある各位に見ゆることを得たるは最も光榮とする所でございます、我長野縣には同業組合法に據つて成立したる蠶種同業組合が各郡にありまして此の各郡の同業組合を統轄して互に氣脈を通じ利益の增進を圖るが爲に聯合會を組織して居ります、然るに此聯合會に於ては現今百般事物の進歩に伴ふ所の總ての活動を爲すには、能く他府縣に於ける蠶業の狀況を調査して以て改良上の參考に資するの必要があるといふので、本年一月代議員會を開き其決議によりて全國を四區に大別致しまして各區に向つて每年一名づゝの視察員を繼續事業と致して派遣致すことになりました、然るに私は關東の方面が受持ちになりまして、去月廿四日出發以來昨日まで群馬、埼玉の間を歷訪して專心視察に從事して居りました、然るに當會に於ては本日大集會を開かるゝと云ふことを聞きまして突然出席致しましたる次第なれば、實は草稿も腹案もありません、故に學識あり又名望ある貴顯紳士諸君の前に於て愚見を述べると云ふは甚だ嗚呼がましいことでございます、然れども圖らず今日此好機會を得ましたに付蠶業熱心の餘り失禮をも顧ず爰に諸君の淸聽を煩す次第であります、固より學者諸君の如く順序も立たず、又言葉も至ツて野鄙にして分らぬ所もございませうが、是は深山溪谷の間から出て來た所の實業者として宜しく其眞意の有る所を御聽取あらんことを希望するのでございます

さて此春夏秋蠶種及び繭審査の標準に就て一言致しますのは是まで諸方に於ける博覽會なり共進會なり又品評會なりが設けられまして其審査の成績に依りましては色々の非難が之にあるのでございます、是は勢ひ何れの方が審査致されましても多少の非難攻擊は固より免かれない次第でありまして、抑も此審査は成るべく愼重の態度を以て適切の方法を講じ、努めて非難を受けざることに留意せねばなりませぬ、殊

に明年は第五回内國勸業博覽會も開設になりますから同業者諸君は今よりそれ〳〵準備設計をせねばならぬ事柄は多々あるのであります、就中私が今日諸君に向つて一層の留意を望まんと欲するものは蠶業上の出品中夏秋蠶種及び繭の審査に關する事柄であります、惟ふに全會の出品は春夏秋蠶を始め山繭、柞蠶繭等も出品之れあるべきことに信じます、然るに從來の審査法を鑑みるに山繭、柞蠶等は別として其他は一定の審査例規の下に審査を執行し、此審査に預かる所の審査員も概ね春蠶面已の經驗者にて、我が南信地方の如き夏秋蠶の發明地且つ本場として全國知名の地たるに係わらず是迄一の審査員を出したるの例を見ませぬ斯の如くにして實地に適合する所の審査を望むも決して得らるる筈がありませぬ、元來春蠶種には春蠶種の特徴があり、又夏秋蠶には夏秋蠶の特徴があつて之を一律の審査法の下に審査すると云ふことは大いに其當を得ないことゝ思ひます、或る論者は兎に角繭なり絲なり固より精良なるものを以て奬勵しなければならぬからそれ等の區別に關係するに及ばぬ、良いものさへ取れば自然良いものゝ方に片寄つて來るから自ら品位を進むることを得と云ふことを論ずる方もございます、是は一應尤ものやうではありますが、甚だ實地に暗い極めて薄弱な議論と思ふのでございます、今此二者に就き各其特徴を說明致しますれば、即ち春蠶絲は其質が强堅で强靭力を有して居りまして、或る織物に限りては春蠶絲にあらざれば其原料に適せぬものもあります、又練減の少きと等は皆其特徴であります、而して夏秋蠶絲は其質は軟弱でありますけれど、光澤は美麗で優美の織物などには至つて適するのでございます、彼の京都の織物を以て有名なる川島花兵衛氏も、婦人服裝に用ゆる高尙優美の薄色織物等には夏秋蠶絲が最も適當であつて、克く永久の使用に適するものは春蠶絲であるとの說でありまして、今假りに之を人身に比しますれば春蠶は男子で夏秋蠶は女子のようなものであります、若し男女を通じて學校に入學するとか其他の志願に就て體格檢査を行ふ場合に男女同一の體格檢査を行つたら如何でございませう、婦人は皆排斥せられて合格するものがないようになるでありませう、之れは其特質に

よりて適當の檢査を行わぬからであつて春蠶と夏秋蠶と同一の審査法の下に審査をなすの不合理なるは之と同一の理由であると信じます。

抑も育蠶中此春蠶を養ふと云ふことに付ては數千年來やり來つた業であつて出來得る限り各地に於ては今日まで行つて居る、又秋蠶の方は萬延年間以來の發明であつて文久、元治、慶應の間を經過し漸く明治五六年以來世間に知られてから僅か三十餘年の間であります、其知られるまでの間假りに體育中と看做しても拾五年に過ぎないのである、前後通じて僅か四十餘年に過ぎぬのである、それが今日ドレだけ發達して居るかと云へば、我長野縣の中で東筑摩一郡に於ても本年同業組合員の製造數が五十萬枚の豫算であります、其他に南信と稱へる內南安曇、北安曇の二郡がございます、之がドノ位の產出かと云ふと殆ど、二十五萬乃至三十萬枚は確に產出するものと思ふのでございます、其他上下伊那郡及び西筑摩郡、諏訪郡等此南信七郡の間、及び北信に於て南北佐久郡の間に於ても隨分製產致します、之を合すれば確に二十五萬枚位は生產するので合計壹百萬枚以上であります、若し假りに此蠶種が一枚に付て二十圓づゝの收獲があるものと看做せば實に二千萬圓の巨額に上るのである、良しや其製造額の中に剩餘を生じて空く發生せしむるとか、又は氣候不順の爲め或は其他の關係より遂作と云ふことが二割乃至三割位はあると致しましても其代りには福島、宮城、山梨、埼玉、岐阜、滋賀等の各縣に於ても多少の風穴蠶種(黑種と稱するもの)及四化蠶あり其他北海道でも出來れば各地の試驗場でも生產する、又長野縣でも自家用蠶種として調査に上らぬものが十萬やソコラはある、此等の見積額の總計は五十萬乃至六十萬枚を下らぬである、そうすると剩餘蠶種や遂蠶の減少を差引計算しても全國では二千萬圓以上の製產のあることは確かな事實であると信じます、斯の如き巨額の製產物が世間に知られてから僅かに三十餘年にして出來るようになつたのは實に其神速に驚かざるを得ぬことではありませぬか、然るに此秋蠶の進路には從來數々の議論がありまして樣々の障害を受けましたなれども遂に斯の如き隆盛に至りましたのは、農家が米作と養蠶との時期の都合と、經濟上

との利益あることを認めたるに外ならぬことゝ思ひます、故に從來攻撃の地位に立ちたる論者も今日には其誤謬を覺り反て之を飼育するようになりました、就ては職に勸業の局に當らるゝ諸君は宜しく保護奬勵の道を講じ、本業を益發達せしむる樣指導せられんことを望むのであります、春蠶は兄なり夏秋蠶を弟として宜しく提携して共に進歩せしめて行くと云ふ價値のあるものであらふと思ひます。

そこで是までの共進會、博覽會等に於ける蠶種及び繭の審査の有樣を見ますると、其審査例規が春蠶の方はそれに該當するも、夏秋蠶の方は其性質違て居るから適當せぬ、然るに同一の例規を用ひ同一の眼識を以て審査せらるゝが故に其正鵠を得ること甚だ難きものであります、故に私の考へますには此審査例規を設くるに付きましては宜しく當局者が春蠶地及び夏秋蠶地の實驗家を召集して能く諸問し、學理と實驗との調査を合せて能く其事實に該當する所の審査例規を作り、且つ其産額に據りまして四分六分或は七分三分と云ふ割合を以て審査員を擧げて審査を行ふたならば餘り相違は無からうと思ひます、先頃大森學士が來信の砌りに此大日本蠶絲會が一二回前より春蠶と夏秋蠶とに付ての審査は別に方法を設けて審査を行ふ趣きに承りました、實に是等は審査上の進歩として模範を示すべきものと私などは歡迎して居るのでございます、それで此位に行届きました所の審査に據ッて然も私の蠶種で四等に相當する原種を御飼育になッた方がある、或は一昨年でございましたか、二化蠶の原種を春蠶と同樣の時期に飼育致した所が如何にも上繭が出來て製絲家の申すに多少繭の肉は薄い代りに解舒が宜いからして是は同一の價格で持ッて行くと云ふことで、同じ價格で賣却したと云ふことでありました、今日斯の如き繭が二化蠶として出來るならばドウか秋蠶も是非願ひたいと云ふことで、松本まで態々出掛けられて警館を訪問せんとするの前夜圖らずも私は宿屋に於て主人の紹介で面會して承ッたことがございます、又一等二等三等に位したものであッても其成績が斯の如くいかぬものも往々あるのでありませう、實に進歩の方針に據ッて特別に設けられた所の審査法としてさへも多少實地上に於ては相違のあることは免かれな

いことであるけれども、成るべく出來得る限りは其事物に適當する方法に據らねばならぬ、若し從來の例規を革正することなく又審査員の採擇を改めざるが如きあらば、或る部分の全業者は博覽會なるものは畢竟空名を衒ふ一種の詐欺的機關場なりとして熱心家は之を忌み嫌ッて出品せぬに至るかも知れません、其場合には多くの國費を投じ折角設けられたる勸業博覽會の主意にも背馳するものと思ひます、又蠶種に付きましても半製なり粹製なり春蠶と夏秋蠶とは同一の附着力、同一の色澤及び体裁を有することは到底出來ないのである、春蠶は御承知の通り必ず水乾き能く色澤濃厚にして卵形凹所多く産附緻密にして卵數多く、卵面平かでありますけれども、夏秋蠶に至りては固より産卵の時期遲きが故に、自然水引に乏しく卵色も異なり、産附粗にして卵形凹所少く、卵腰高く卵數も亦從て少數なるは天然の性質上然らしむるもので、蠶種の善惡に關係するものでありませぬ、此點も繭と同じく春蠶種の審査例規に當てい審査を致しました時には、夏秋蠶種なるものは生涯頭を擡げることが出來ない、それで是までの所は微々たるものとして固より之が爲に特に審査法を定むる價値がないと致しましても、今日に至りては既に二千萬圓餘の財源たること以上は之が奬勵の爲に、既に此の如く巨額の財源たる所の審査法を設けると同時に夏秋蠶の生産地に就き適當の審査員を擧げ、精密の審査を遂げ斯業を奬勵するの必要があらふと思ひます、故に願くは滿場の諸君此邊に留意せられて、將來の審査上に適切の方法を定められんことに御盡別ありたく希望致すのであります。

●蠶病の蔓延は濕氣の増加に伴ふ

大日本蠶絲會
通常會員　田村兼藏

蠶に濕氣の害ある事は古來諸學者及び養蠶家諸氏の常に唱導せらるゝ處にして、既に陳腐に屬し今更余輩の喋々を要せざることなれども、余の蠶病の蔓延は濕氣の増加に伴ふと稱する所以は稍其觀察を異にし、從て蠶病豫防の方法に於ても異なる所あり、否飼育方法も亦稍異なるやの所見より玆に聊か感ずる處を吐露するに至れり。

余嘗て夏蠶を飼育するに際し氣温の高きを恐れ、可成戸障子を開放して飼育せしに、年々軟化病及び硬化病を生じ、如何に手を盡すと雖も多く斃死し好結果を得ざりき、是れ獨り余の技術の拙劣なるのみならず、夏秋蠶の春蠶に比し飼育容易ならざることは熟練家諸氏の已に經驗せらるゝ所ならんと信ず。然るに先年札幌蠶業傳習所に於て夏蠶を飼育するに當り、其飼育日數を短縮せんとするの一念より火力を用ゐて飼育せしに之を用ゐざる時に比すれば頗る好結果を得たり、依て是は如何なる理由なるやを探知せんとし、種々なる方面より之れが調査を試みたり、元來本邦の氣候は氣温の高まるに從ひ濕氣増加するを以て之を拂ひ去らんとせば、夏秋蠶の候は春蠶の候より一層多量の火力を用ゐて濕氣を排除するの必要あることを考察し、必竟養蠶に火力を用ゐて好結果を得たるは全く是れが爲めなることを認めたり、以後年々夏秋蠶を飼育するに火力を用て濕氣を排除し、好結果を得つゝあり、否火力を使用するときは病蠶を生ぜざるのみならず、之を用ゐざる場合に比すれば遙に飼育し易きの觀ありとす、今左に温度の高騰するに從ひ濕氣の増加する割合を掲げん。

種別	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月
温度	七度	一二度	一七度	二〇度	二四度	二五度	二二度
濕度	六九	七六	七九	八二	八三	八二	八三

備考　本邦各地に於ける觀測の成蹟は濕温の高まるに從ひ濕氣の増加する割合概ね同一なると、且繁雜な煩けんが爲めには東京に於ける平均温濕度のみを掲げたり、而して温度は攝氏、濕度は百分率なりとす。

編者曰ふ　著者の寄せられたる稿は電光線を以て温濕度を現はしたれども茲には省略なせり、故に温度の高まるに從ひ濕氣の増加を證するには餘りと雖も、多少の誤謬なきを保せず、讀者之を諒とせよ。

此圖表の示す處に依れば氣温の高まるに從ひ濕氣の増加することは明かなる事實にして、蠶病も亦春蠶の候より夏秋蠶の候に多きは養蠶家諸氏の熟知せらるゝ處なり然るに夏秋蠶の春蠶に比し不結果なるは普通唱道する處に依れば氣温高きに原因するものなりとせり、然れども蠶兒は決して高温によりて容易に斃死するものにあらずして全く其原因は微菌の寄生にあり、而して微菌の蔓延を補助するものは蓋し濕氣の増加に外ならずと信ず、（桑葉の硬化も不結果を生ずる一因とす）茲を以て蠶病豫防方法の一策として氣温冷なる春蠶季に火力を用て、第一温度を高め、第二空氣の流動を起さしめて交換を計り以て炭酸瓦斯を排除し、第三空氣を膨脹せしめて空氣を乾燥し濕氣を拂ふの利益なるは勿論、氣温高き夏秋蠶の候と雖も、蠶室の戸障子を少しく開放し置き火力を使用し以て濕氣を排除し空氣を乾燥せしめて飼育するの利益なるを感ず、幸に會員の之を試みられんことを希望す。

●雜　錄（Essais et fails divers）（Miscellaneous）

●美蘭生絲檢査所蠶絲試驗報告

（續譯載）

輸送中傷害を受けたる絹織物に就て

近來外國に於て著名なる製絹所の中には其の製造に係る絹織物の亞米利加に到着するに當り之れを少しく牽延するときは忽ちにして戮裂せざるもの殆んど稀なるが故に終に購買者より多數の輸送を拒絶せらるゝが如き不幸の狀況を見るに至れり此の欠點に就きては諸說區々として未だ歸着する所あらず深く之れを討究するにあらざれば其の原因を知悉することを能はざるなり

實驗室に於て親しく試驗せし絹織物に就て見るに其

の緯絲(白色若くは染色したる)は變性せる所ありしにも拘はらず經絲(黒色青色又は白色)には毫も異狀を呈する所あらざりき此試驗に於ては最初先づ經絲及緯絲の重量を比較するの方法を採れり緯絲の重量經絲に比して大なるが軟柔にして十分の晒練を經たることなきものは織物の抗力甚だ強く要するに織製の際能く摩擦に堪へ決して破切の患あることなし實際織製するに當り相互摩擦の爲めに緯絲は經絲を切斷すること屢々之れあるを免かれず然れども今回試驗せる織物に就きては經緯絲共に大差あることなく其の組織左の如くなりき

經絲	百分の五六、七九九
緯絲	百分の四三、二〇一

運輸途中に於ける傷害に就き其の原因を討究するの外猶ほ織物製造の原料なる絲の纖維に染色の際過量の硫酸を附着するとなきや否やは最も精細の試驗を要すべきものとす而して酸性及鹽基性染料を使用して蠶絲を染色するには硫酸百分の〇、〇三乃至〇、〇八を滲潤せしむるを適度とするは既に人の知る所なり曹達溶液に織物を浸したる結果之れに附着せる所の硫酸量左の如し

緯絲	6.397%SO_4H^2
經絲	5.255%SO_4H^2

以上の比例に徴すれば酸性度の差甚だ輕少なるを以て緯絲には殊に傷害を及ぼすことあるにも拘はらず經絲に就ては毫も變性を生ぜざる所以の原由は未だ充分に之れを解釋するを得ざるなり然れとも一方に於て其の變性は運輸途中に於て偶生するものなること事實なりとするときは染色の際之れに附着せる過量の物質に就き變性の原因を研究せざるべからず灰分に就き分析的試驗を實施するときは實際生絲を染色するに屢々錫鹽を重用せし痕あるを證するを得べし今第二錫酸鹽の比例を舉ぐれば左の如し

緯絲に於ては	百分ノ二七、三三五
經絲に於ては	百分ノ七、〇〇七

右に依れば重量の增加は練絲に比較するときは百分ノ四四、一九及百分ノ一一、三二なるべし然れども實際の試驗に據るときは豫め充分に諧般の注意を加ふることあらば猶ほ多量の物質を蠶絲に凝着せしむるありと雖も夫れか爲めに著しく變性を釀すが如き意は毫も之れあるなきことを確證せり且假令其の生絲は長時間の保存に堪へ得べからざるの嫌ありとするも今回試驗せし織物に於けるが如く其の變性を速かならしむるの原因を發見する能はざるなり

●風穴調査

蠶業家の經濟として横に膨脹せしむること、即ち年一回の大養蠶となすの不得策縱に膨脹せしむること、即ち年數回の小養蠶(住家、人手、所持の桑園に相應する)となすの有利なることは、既に識者の是認する所なり、而して夏秋の餘養蠶となすに數き、必要條件は健全なる蠶種を求むるにあり、夏秋蠶種を製造するの法種々ありと雖も、多くは風穴の力を借らざるべからず、此に於て乎茲に風穴の調査を記載し、當業者の參考に資せんとす、風穴の所持者管理者諸君は左の例により進報あらんことを希望す、

一位置、二經歷、三管理者或は所持者の姓名(會社組織なれば會社名)四貯藏し得べく蠶種枚數、五風穴内貯藏別中の溫濕度、六蠶種貯藏料、

七、島根縣須佐風穴

一位置　島根縣出雲國飯石郡須佐村にあり鬱茂たる山林の褶東南に面して岩石積重し冷風を吹出す此を以て古來風穴の名高し此地は出雲國松江市と安藝國廣島市とに通ずる山陰、山陽間の國道筋飯石郡掛合驛より西に三里餘又山陰道縱貫の國道筋簸川郡今市驛より南に約五里共に車道相通せり

二經歷　須佐風穴は今を去る八年以前明治二十八年よりの經營に係り同三十年より開業せり此風穴の開創者石原虎三郎は當時島根縣蠶絲業組合の實務に當りしが縣下の蠶業稍振運に向へしとは雖も春蠶のみにして夏秋蠶なるものあらず然るに春蠶は普通農事其他の關係上充分の發展を期し難き狀況あり又農家の經濟としては春夏秋の各期に養蠶を行はしむるの切なるものあり之に加るに春蠶種の貯藏も風穴を利用するの安全なるを覺ひり風穴設置の議を蠶絲業組合會に諮り自から關東地方の風穴及び夏秋蠶の狀況を管査せり然れども機未だ熟せず組合事業として風穴貯藏庫を設くる能はず止むを得ず石原虎三郎一己の事業として之を設置し爾來繼續今日に至れり

三所持者　島根縣飯石郡掛合村　石原虎三郎

四貯藏し得べき蠶種の枚數　貯藏し得べき蠶種の枚

數は二個の風穴貯藏庫にて約十數萬枚（所持者の申出に依る）を入るゝに足る

五風穴貯藏期中の溫度　風穴貯藏庫中に更に上藏下藏又は越冬庫等の內藏あり各溫度自然一定ならずと雖も其一班を揭げは左の如し

十二月	三十五度	四月	三十四度	七月下旬	三十八度
一月	三十二度	五月	三十五度	八月上旬	三十九度
二月	三十度	六月	三十六度	八月下旬	四十度
三月	三十二度	七月上旬	三十七度		

因に云ふ本貯藏庫は濕氣殊に少し其例を揭げは他に米麥其他の種子或は蠶蛹蠶繭又は總ての植物若くば新茶海苔の類凡そ皆之を貯藏して特に効果あり然れとも素より蠶種と其所を異にし別に支障あることなし

六蠶種貯藏料

普通製壹枚　五錢

框　製壹枚　四錢

貳百枚以上は壹割引五百枚以上は壹割半引千枚以上は貳割引但し返送費は別に之を受く

●長野縣地方製絲用汽鑵に就て

長野縣の製絲工場に使用する汽鑵は多管式にして出來得る丈內管の徑を大にし觸火面を增加せしめて燃料の經濟を圖れり稀にランカシャイヤー式のものあれども三個所にて薪材を燃せり此の如く燃料の節減を圖るに努めながら蒸汽機關の排氣を徒らに空氣中に出し毫も給水を溫めざるは遺憾なりと謂はざるべからず

燃料は多く松薪を使用すれども其價高き爲須坂地方に於ては重油を使用するに至れり而して松薪は一釜に對して通常九錢を要すれども重油なれば其四分の一にて足ると云ふ（尤も近來重油漸次價格騰貴し其差少くなきに至れり）然れども燃火裝置に注意せずして薪炭と同樣に之を使用するときは內管の一部をのみ熱し汽鑵の保存期限を短縮するの恐あり

普通の工場に於て一個の汽鑵に壓力計二個を附するものあり是れ一個の壓力計のみにては其指示確實ならざるを以て添加すとの事なれども其何れが正なるやを知らず實に無稽の所爲たるを免れず是れ畢竟ゲージスターなき爲に壓力計に不安を懷きし爲ならん元來壓力計は非常に大切なるものにして此誤差は往往危險を來すの原因となるものなれば長野縣の如き多數の汽鑵を有する地方にてはゲージスターを供へ毎年若くば隔年に一回檢定すること必要なり是れ一方に於ては汽鑵扱取者に安心を與へ無益なる壓力計一個を節減することを得ればなり

蒸汽を工場に供給するに際し蒸汽溜を設けざるの欠點あり是れが爲二個の不利益あり第一は製絲場の釜に給する蒸汽の溫度に差を生ずること第二は始業の際工女一切に蒸汽を使用するを以て壓力を常用壓力よりも高度に昇するを要することにして殊に汽鑵室と製絲場との距離大なるものにありては其不利も亦從て多しとす若し蒸汽溜を設け之より便宜の場所に蒸汽管を敷かば火夫も當初過分に石炭を投入し壓力を高むる必要なく從て危險の度も少かるべし

汽鑵の給水裝置は注射器をのみ使用し例令補水喞筒を有する蒸汽機關を有するも之を利用するものなしは或は容量の適應せざるが爲めならん

原動機は多くは水車を使用すれども又蒸汽機關を使用するものあり機關は皆水平式單動不凝縮機にして極めて簡單なるものなり而して其構造は甚だ粗器にして或はスライドバルブ、ロットニガイドなき爲パッキンググランド偏して磨滅し蒸汽漏泄するものあり或はドレンコックを下部になくして側面に附せしが爲蒸溜水を吐出し難く運轉中徒らに排氣するものあり其他取扱上に就ても欠點なき能はざるなり烟突の如きは成るべく廉價に之を製造せん爲極めて薄き鐵板を使用せり甚だしきは徑四尺內外のものにして尚五厘板を使用するものあり故に其保存期限も普通のものに比し少し現今は薪材を燃料として用ゆれとも將來は石炭を用ゆる至るべければ烟突の構造上一層注意を要するなり

諏訪地方に於ける汽鑵製作の方法は鐵材の檢定をなするゝ工作用檢械を有せず且其方法と極めて不完全なるを免れず現今使用する汽壓低きの故に未だ甚しき故障を見すと雖も其保存期限に近き時に至れは或る機械を據付け工作の方法を改良せば利する所蓋し尠からざるべしと云ふ

統計 (Statisique) (Statistics)

三十五年八月中生絲類及絹物類輸出入前年對照表

（大日本外國貿易月表に據る）

種目	三十五年八月分 數量	三十五年八月分 價額	三十四年八月分 數量	三十四年八月分 價額	三十五年一月以降累計 數量	三十五年一月以降累計 價額	三十四年一月以降累計 數量	三十四年一月以降累計 價額
輸出 生絲 機械製（十二デニール紡絲）同太絲（十四デニール以上）	七三〇〇貫	七三〇〇圓	三四〇〇貫	三四〇〇圓	四七三〇〇〇貫	四七三〇〇〇圓	四三〇〇〇〇貫	四三〇〇〇〇圓
輸出 其他	四三〇〇貫	四三〇〇圓			三〇〇〇〇〇貫	三〇〇〇〇〇圓	三〇〇〇〇〇貫	三〇〇〇〇〇圓
輸出 製斗絲	一〇〇〇〇〇貫	一〇〇〇〇〇圓			一五〇〇〇〇〇貫	一五〇〇〇〇〇圓		
輸出 層編	一〇〇〇〇〇

月								
三月	一七、一三四、六六六	三、三六四、〇六六	三、六四四、一四六	三、六四四、一四六	一	一	一	一
四月	一八、八六九、四四六	三、八五七、五六八	四、一四四、六六六	四、一四四、六六六	一	一	一	一
五月	一九、四六八、七一九	三、九六六、六四一	三、九六六、九四九	三、九六六、九四九	一	一	一	一
六月	一六、五二一、〇九九	三、〇〇五、九九七	四、七〇五、九九七	四、九五四、八六九	一	一	一	一
七月	二、八三七、一三八	三、〇三八、一六八	三、八七九、三六九	一、八六七、〇〇三	一	一	一	七三、一八〇、八
八月	二、八三七、四九六	三、〇〇八、三九四	四、二六六、八一九	三、九六七、〇〇六	一	一	一	一
計	一四、一〇三、一三一	二四、三六〇、六六七	三四、三六四、一四六	三四、三六四、一四六	一	一	一	一

備考　昨三十四年八月中は輸出二千二百八十萬四千百九十四圓三十五錢、輸入二千七百四十四萬三千四百九十三圓十二錢にして輸入超過四百六十二萬九千二百九十八圓七十七錢なり

●蠶絲類眞綿蠶種産額表

（據農商務省調査）

明治三十四年の蠶絲類の製産額は生絲百七十五萬五千六百七十七貫屑絲類七十一萬千四百八十五貫眞綿六萬五千三貫なり之を前年に比するに眞綿に些少の增加を見るの外何れも多少の減少を示せり

前號述ぶるが如く明治三十三年に於れる養蠶の結果は近年無比の豊收にして三十四年は稍之に劣れり然るに蠶絲類の製産額前年と相伯仲する所以のものは蓋し前年より持越したる繭の本年に至りて製絲せられたるに因るものなるべし蠶絲類に關する外國貿易の狀況價格少しく低廉なるも生絲屑絲類とも數量に於ては未曾有の多額に達したり今其割合を示さんに生絲は製産額の七割九分を占め屑絲類は製産額より尚多量の輸出を爲せり（製産額七十一萬千四百八十五貫に對し輸出額七十六萬六千二百八十六貫）蓋し本年に於ける蠶絲類輸出の多額なりしは爭ふ可らざる事實にして其の輸出は實に開港以來の最多額たり隨て其總價額生絲は七千四百六十六萬七千三百三十一圓屑絲類四百四十六萬八千七百六十九圓に達せしも百斤の價格は稍低廉にして生絲は三十三年には九百六十四圓三十四年には八百五十八圓屑絲類は三十三年には百七圓三十四年には九十三圓なり斯く價格の下落したるは果して何等の原因に基くか宜しく一考を要する所なり

生絲屑絲類及眞綿累年比較

年次	生絲	屑絲類	計	眞綿
自明治十九年至同二十二年平均	七八、一、八五一貫	二七四、八九三貫	一、〇七六、七四四貫	四七、一三四貫
明治二十三年	八四三、二七二	三二〇、〇九九	一、一六三、三七一	六二、五三五
同二十四年	一、〇八七、九七六	四二六、四〇九	一、五一四、三八五	五四、八〇三
同二十五年	一、〇九六、〇八八	五二二、五四四	一、六一八、六三二	五七、一二一
同二十六年	一、二三三、五五四	五四一、二六七	一、七七四、八二一	五六、九五〇
同二十七年	一、二九六、七八三	五九〇、八〇一	一、八八七、五八四	五四、二五一
同二十八年	一、六〇三、三一一	六九六、三七七	二、二九九、六八八	六一、七七一
同二十九年	一、四四二、七二〇	六一〇、〇八三	二、〇五二、八〇三	五八、一六六
同三十年	一、五三七、五六一	六二九、三七五	二、一六六、九三六	六八、四四三
同三十一年	一、四七九、七四七	六五五、一一八	二、一三四、八六五	六四、三〇一
同三十二年	一、七九四、二四二	七六二、四〇一	二、五一六、六四三	六三、九一六
同三十三年	一、七五五、七五一	七三八、九〇五	二、四九四、六五六	六四、七二九
同三十四年	一、七五五、六七七	七一一、四八五	二、四六七、一六二	六五、〇〇三

生絲其他産額地方別

地方	生絲			屑絲類			眞綿		蠶種	
	器械	座繰	計	撚斗絲	玉絲	屑絲及屑物	普通製	桑製		
東京	一三六貫	三〇、七六六	三〇、九〇二	四四、四七六	六、八六六	六、三三〇	六、三三〇	一、六三	四四、三九五	三六、四四〇

| | | |

問答 (Questions et réponses) (Question Box)

●桑樹の件に就き質問

千葉縣夷隅郡千町村　大日本蠶絲會員　鶴岡順之助

我地方の桑園を視察するに是迄は敢て被害を蒙りたるを覺えざりしも昨年以來六月下旬乃至七月頃に至り新梢の稍や一尺五寸位に長するに至れは今回迄附せし被害桑樹の如く(二種)即ち一種は新梢と古木との境界より恰も風の爲め或は人の手を以て折りたる如く折るゝと一種は境界より五分乃至一寸斗り上部迄溝黑く著しく細くなりて壓枯するの二樣あるを認め甚しきに至りては新梢數本を枯し又は一株悉皆壓枯するに至る就中早生桑に多く視る處なるが是の病は如何なる原因によりて起るものなるか該病名及豫防法を詳細に御教示を乞ふ

大日本蠶絲會技師委員　野村彦太郎

答　迄附の標本を檢するに其病徴には多少の差異なきにあらずと雖も總て其病は同一にして恐くは癘腫病に罹れるものならん該病は根刈仕立の早生種に見る所にして夏時雨天續きのときに多し殊に刈採法の惡くして其斷面の滑かならざるか或は土際に接して枝條を刈採り其斷面に土を蒙ふるが如き場合に最も多く發するなり故に此病を豫防するには根刈仕立を廢するを良しとす然れども今日の蠶兒飼育上之れを廢すること能はずとせば可成枝條刈採に注意すると共に到底枝條の生育に見込なきものは適期を撰んで早く刈採り以て新枝を發せしむべし

●蠶室内の炭酸瓦斯測量に就て

宮城縣伊具郡舘矢間村　大日本蠶絲會員　牢澤豊治

(一)蠶室内の炭酸瓦斯を測量するには如何なる方法を以てすれば簡便にして精確なるものなりや

(二)蠶室内炭酸瓦斯の量は如何なる程度まで蠶兒に害なきものなりや

(三)蠶兒の各齡共炭酸瓦斯の量は蠶を害するに差なきものなりや

(四)炭酸瓦斯にて被害の蠶兒は如何なる狀態をなし

斃るゝものなりや

(五)蠶室内炭酸瓦斯の程度を知るに簡便にして精確なる器械又は藥品あれば其品名及價格賣店共御教示を乞ふ

(六)人工越冬法を以て一化種を二化せしむる方法是れありと聞く如何なる方法を以てせば奏功ありや

(七)人工越冬法にて二化せしめたる蠶兒を以て秋蠶飼育するも蠶兒の健康に異狀なきものなりや

答　大日本蠶絲會技師委員　農學士　川島勝次郎

(一)蠶室内炭酸瓦斯を測定するには精密なる化學的分析法を行ふの外に簡便にして精確なる方法なし

(二)蠶室内炭酸瓦斯の蠶兒に害を及ぼすべき程度は不明なれども人類に比すれば稍其多量に耐へ得るものゝ如し

(三)蠶兒の各齡とも炭酸瓦斯に耐へ得べき力に大差なけれども齡の進むに從ひ漸次に之に耐ふるの力を增すの傾あり

(四)炭酸瓦斯の害あるや明なれども普通の蠶室に於ては直接に之が爲めに斃るゝほどの蠶兒は殆どなかるべし然れども若し蠶兒を極めて濃厚なる炭酸瓦斯中に入るれば口より青色の汁液を吐きて苦悶し一時氣絶するに至る此の如く極端なる害を加へたるものにても新鮮なる空氣に觸るれば徐々に回復するものなり

(五)近頃室内炭酸瓦斯測定器を發賣せるものあり是れ其藥品を瓶に入れ一方にはゴム製フイゴを以て炭酸瓦斯を含める空氣を該瓶内に送入し以て化學的變化を起さしめ之に由て該瓦斯量を知り得べき裝置なりとす故にフイゴの使用を一定にすることを得ば大要其分量を知り得べき理なり然れども余は未だ之を普通の分析法に依りて得たる量と比較するの機會を得ざりしを以て其成蹟に就て答へ難し發賣所は本會報其他の蠶絲業に關する雜誌に廣告せるものを見るべし

(六)人工越冬法を以て一化種を二化せしむるには產卵後時日を經過せざる内に華氏四十度以下の冷所に運び爾後凡そ七十日を經て之を取出し適當の處置をなすべし

(七)人工越冬法を行ひたる蠶絲より發生したる蠶兒が果して實用に適するや否やに付ては未だ精確な

る試驗の成蹟に接せず然れども普通の蠶種製造期に得たる一化種に就き人工越冬法を行ひたる場合には掃立時期遲きに過ぎ食桑は粗硬となり溫度は變化甚しき期節に向ひ飼育甚だ困難なり

●給桑其他の件に就き質問

京都府船井郡新庄村　大日本蠶絲會員　松本繁吉

(一)八月二十五日發行の蠶絲會報第百二十二號中生絲改良法に付てと題し特別會員境野清衛君は給桑回數を成べく少なく五齡中清涼育の時には一日貳回位を以て適度なりと述べられたるが右は尤も生絲改良の點より述べられしなれども實際回數は少なくても一回に多量に與へさへすれば蠶兒には無害なるものなりや果して異狀なきものなれば飼育上大に手數を省ぶき且つ生絲の改良も出來蠶業上大に利益少からずと信ず右何分の義明細に御敎示あらんことを乞ふ

(二)各齡共桑葉の肥料分有無に因て蠶兒に及ぼす關係は如何なるものなるや充分肥料を與へたる桑葉を給するときは飼育も容易にして繭は目方も多き樣に云ふものあり果して然らば收葉の點以外に繭にも經濟上關係を及ぼすや何分の御明示を乞ふ

答

大日本蠶絲會　技藝委員　松永伍作

(一)給桑の回數及其分量は溫度の高低空氣の乾濕等に由り增減するを肝要とす假令清涼育と唱ふる飼育法を行ふも天然の氣候は一定なる能はざるが故に高溫にして乾燥し蠶兒の發育速にして食桑盛なる場合には頻繁（一晝夜五六回位）に給し之に反する時は減少（一晝夜二三回位）すべし給桑の要は蠶兒の發育に準ずべきものにして之が過不及なかりせば健全に成長して良繭を結ぶものなり

(二)肥へたる桑葉を用へて飼育すれば其蠶兒肥大に成長し絲量多き繭を結び痞たる桑葉を用ふれば前記に反するものなりとす

●風穴に蠶種を貯藏する法其他の件に就き質問

富山縣婦負郡野積村　大日本蠶絲會員　山口兵太郎

(一)我地方に風穴あり之を檢するに盛夏と雖も華氏四十度より登らず而して濕球は乾球より却て登れり蠶種の貯藏に耐ふるや否や又風穴蠶種貯藏法委敷御敎示あれ

(二)往々蠶の胎兒を生むを現に見しと云ふ者あり浮塵子等の如く胎生卵生二樣を以て繁殖することあるものなりや其理由御敎示あれ

(三)ノミトリ粉は蠶兒に害なきものなりや否や

(四)軟化病菌の傳染力を有する日限如何

(五)蠶座を乾燥になすときは偶濕桑を與ふるも害なきや

答

大日本蠶絲會　技藝委員　土屋泰

(一)七月末に至るも華氏四十度の低溫を保ち常に風の吹き出すが如き場所ならば適當なる構造を加へば蠶種を貯藏することを得べし而して濕球寒暖計の示度乾球寒暖計の示度より高きは理論上ある可からざることなり恐らくは器械の誤差にして風穴内は飽和度即ち乾濕南球の示度ならんと信ぜらる尙精密なる器械を以て觀測せらるべし

右の風穴にして推測の如く濕氣の飽和なりとせば蠶種貯藏として不完全なりと雖も貯藏箱の構造に注意し濕氣の浸入を防がば全く實用に適せざることもあらざる可し

(二)蠶は卵生にして三態の變化をなす即ち仔蟲蛹母蟲是なり而して斯學專攻者中嘗て蠶の胎生を認めたるものなし然るに古來當業者間往々此說をなすものあり蓋し特殊の事情の爲に著しく發育の後れたる蠶兒の偶々四用齡蠶の尾足間に挾まれたるを誤認せしものならん

(三)ノミトリ粉は蠶兒の大害物にして接觸せしむれば忽ち中毒の病徵を現し斃るゝを常とす

(四)軟化病には種々ありて其病原菌も亦自ら性狀を異にするものなり而して消毒試驗の結果に徵すれば亦各其抵抗力に强弱の差あり故に氣中に放置する場合に於ても生存期に長短の別あるは當然なり又同一の細菌も其所在の狀態如何に由りては生存期に著しき差異あるべし例せば日光に直射せらるゝか或は直射せられざるも間接に强射せらるゝが如き場所又は常に外氣流走の衝に當れるものゝ如きは生存日數短く之に反して蠶具類に附着し重疊せられて納屋等に在るものゝ如きは生存日數長しとす此等所在の狀態と生存期限との關係に就き未だ精密に試驗せゞ成蹟あるを聞かずと雖も蔟網等

の蠶具に附着し尋常に保存せられたるものは一年間以上生活力を保つものなることは從來數多の實蹟に據りて確認する號なり

(五)蠶兒は食桑中當然含有す可き水分の外過剩の水分を忌むが故に普通の場合に於て濕桑を與ふるは衛生上不良なるものなり然れども夏蠶或は秋蠶期に於て氣温九拾度内外に昇り乾濕雨球の示度七八度以上の差を現はすが如き時は濕桑を與ふるの必要あり此場合を除くの外は概ね濕桑を遮くるを安全となす

●蠶病の件に就き質問

埼玉縣秩父郡兩神村　大日本蠶絲會員　出浦精一

本年我地方春蠶を晩く飼育せるもの大眠起桑附より梅雨に際し毎日の雨天なるを以て止むを得ず露桑を一二回位づゝ給與せり然るに熟蠶の現はるゝ頃普通蠶火と反對なる背部透明となり胸部は不透明にして(方言之を喉ぐもりと云ふ)桑のみ喰し繭を結ばす遂に斃死するに至る依て此蠶病の原因を問ふ

答　大日本蠶絲會技藝委員　農學士　須田金之助

該病は一種の軟化病(空頭蠶)ならん而して其源因は微菌の作用に基因すると雖も亦是が誘因なるものあり之とす即ち露桑を與へ(飼育上の注意を欠きたるも其一なり)依て該病を防がんには雨桑の如きを與へざるに在り降雨連日に亘り止むを得ざる場合には雨桑を早く採伐し充分に露をきり薫烟法を行ひ除沙を頻繁にし蠶坐をして過濕ならしめざるに在り然れども消毒法の不完全なる蠶室に在ては如何に飼育法に注意するも亦罹病を免るゝ能はざることあるべし茲を以て飼育法に注意すべきは勿論飼育前よりして消毒法も充分に施行すべきものとす而して消毒法に就ては屢々本紙上に記載ありしを以て茲に之を畧す

●斃蠶の件に就き質問

福島縣伊達郡小國村　大日本蠶絲會員　佐藤盛一

蠶五齡四日目(給桑十二回目位より生ず)にして蠶座より一枚に十頭乃至四十頭位倒死したるものあり但し蠶室内の蠶座悉く生ずるに非ず處々に一枚位にして他は上出來なり依て何の爲めに倒死し何病なるや倒死蠶五六頭送附せるに依り御教示ありたし

答　大日本蠶絲會技藝委員　農學士　林驛作

實物は郵送中著しく壓潰せられ蠶體の外貌明かならず加ふるに余が檢査當時は(八月十六日)既に時日を經しものなれば糜爛せるもの乾涸して包紙に固着せり試に其一部を取りて鏡檢したるに數多の細菌類を認めたり其内病原菌に類せる形態を具ふるバチルス存在せりと雖も著しく不純のものなれば容易に之れを分離培養して病原菌なるや否やを確かむることを能はざりし然れども質問書によりて之を考ふるに恐らく細菌の寄生に原因するところの一種の軟化病なりしならん

●蠶種製造に就き質問

山梨縣東八代郡祖父村　大日本蠶絲會員　笠原安造

(一)蠶種を製造するに原種の卵面同色なるものを撰抜し飼育せば之より生ずる蠶種は一齊同色なるものなりや若し同色のものを生せしむるも斯の如き卵面同色の撰種を行ひたらんには蠶兒をして虚弱に陥らしむるの虞なきや

(二)蠶種製造の際隔日に發蛾せしものを同一原紙に産卵せしむるも蟻蠶發生後一齊に發育するものなるや

答　大日本蠶絲會技藝委員　田島棟平

(一)蠶卵同色のものを撰み飼育すれば變色の卵少きものなり且つ年々同樣の撰種を行ふも敢て蠶兒をして虚弱に陥らしむるの虞なからん

(二)隔日に發蛾せるものを以て同一臺紙に産付せしむるは不可なり假令蟻蠶同日に發生するも發育一齊なるは難しとする所なり

●乾燥器の件に就き質問

群馬縣利根郡古馬牧村　大日本蠶絲會員　櫛淵雄須賀

本會會報第百拾壹號今西直次郎君講述中のゴーチエー氏乾燥式は本邦の殺蛹にも適用し得べきや且つ該器價格をも示されんことを請ふ

答　大日本蠶絲會技藝委員　今西直次郎

ゴーチエ式乾燥法は最初蒸汽を以て殺蛹し後ち温氣を以て乾燥するものなり此方法は余嘗て佛國製絲場に於て實驗せるものゝ其原理を同ふする者の如し而して一昨年佛國巡回中實地に就き之れが調査を爲せしに何れも好結果を得ると云ふと雖も未だ之を普及するに至らず蓋し佛國は今尚ほ蒸殺のみを以て殺蛹し天然乾燥を施す者多きに由るべし此乾燥器を本邦に利用するの利害に付ては余の實驗上差支なきを認

むと雖も蒸殺前繭を精撰し置かざれば蒸汽の収縮により他の良繭を汚染するの虞あるべし其他は製絲上好結果を得るものと信ず又該器械の代價は其大小及其構造に依り自ら差異ありと雖も最低價の器械は一回生繭五十「キロ」（我十三貫三百目）を収容するものにして佛國里昂渡金三千四百五拾法（我凡そ千三百八拾圓）なり蒸汽機關車附運搬すべき分は其價殆んど一倍す

◉絲況 (Marché des Soies) (Raw Silk Market)

◉横濱市場

經濟界は依然として惰眠を貪り、商工業は殆んど生色を失ふ、此間にありて生絲貿易は獨り寵を擅にし敢て躍進突飛の大活劇を演ぜずと雖も、販路は坦々として砥の如く、從て製すれば從て售れ、價格も漸次上昇の傾向あり、之を以て生産地に於ける製絲場は汽笛嚶々たり繰車輾々たり、忙殺の光景實に觀るべきものなり、又新凉は工女の紅顔を拂ふを以て流汗漸く相減し、繰量之と反對に相増し製絲最盛の期に達せり、而して其上旬に於ては上州南部座繰五圓高を示し活況を呈せり、越て中旬に至りては新規の注文頻に至り、屢〻千個乃至二千個の大手合行はれ相場も從て昂騰したり、下旬に至りても相變らず好況を持續し、多少價格も上向の氣味なりしが、旬末に至りて少しく逡巡の狀と示せり

今本月に於ける數字的の實蹟に擧くれば、客月よりの持荷數をば一萬四千〇六十四個にして、入荷は二萬二千五百十六個半、之を合算するときは三萬六千五百八十個半となる、其内賣了せるもの二萬〇百六十七個にして地方積戻せるもの三百五十一個、之を計算すれば二萬〇五百十八個となる、又之を客年本月分に於ける狀況と對照すれば、客年は入荷一萬七千九百八十六個半にして、積戻四百二十八個、賣了一萬〇百十一個なりしを以て、本年は昨年より入荷に於て四千五百三十個を増し、積戻に於て七十七個を減じ、賣了に於て一萬〇〇五十六個を増加せり、價格は本年本月に於ける最高價は信濃信陽館の器械太にして一千百圓、最低價は岩代協立白牡丹の折返にして八百十五圓なり、昨年同月に於ける高價は伊勢丹羽製絲の太にして一千圓、低價は岩代協立三人娘の折返にして七百七十五圓なるを以て、昨年より本年は高價に於て一百圓、低價に於て四十圓の高差を現せり、

活動せる絲況が月末に至り頓に鎖沈せし原因は抑も奈邊に存ずるや、或は紐育市場の金融逼迫せるは其原因なりと傳ふるものあり、又近來米國に於る石炭鑛夫の同盟罷工は勢益々猖獗にして同國々家の致命症とも言はるゝ程の狀況を呈し、勞働者資本家共に確執して容易に調停の見込なきより、折角仲裁の勞を執らんとしたる同國大統領も遂に斷念するの止を得ざるに至り、仲裁談も終に整はざりしとのルートル電報もあり、是れと同時に佛國里昂附近にも石炭同盟罷工起りたりと云へば、此等も其原因の一なるべし、然れども其重なる原因は新絲以來生絲貿易の好況に伴ひ價格の昂騰に過ぎたること、及歐米の機業者は當用口を買入れたるに基くなちん、故に石炭同盟罷工の調停せられ、生絲相場の折合に至らば再ひ好況を觀るを得ん乎。

今左に生絲集散種別表を掲げて參考となさん

明治三十五年九月自一日至三十日生絲集散種別表

種別	持越	入荷	賣了	積戻	繰越
器械	八六〇八	一四九二半	一四四三	三四九	八六〇二半
座繰	三八〇六	四三四四	四二二九	一	四二四〇
折返	一二六八	三〇〇四	一二六六	一	三〇六五
雑糸	三三	三四	三〇	—	三七
合計	一四〇〇四	三二六六半	二〇一六七	三五一	一六〇〇半

備考

一、表中單位個は九貫匁を指す

二、持越とは客月より本月に持越したるものにして本月一日の調査、繰越とは本月より翌月に繰越すべきものにして本月末日の調査に係る

三、「前月分の繰越と本月分の持越と其數一致せざるは商談中のものありしによる

四、繰越以外に商談中のものありと知るべし

五、本月中輸出せし生絲の數量は一万〇九百七十九俵にして内米國に七千三百八十八俵、歐洲に三千五百九十一俵なりと

倘左に本年一月以來の生絲集散日別表を示すべし

明治三十五年九月自一日至三十日生絲集散日別表

□器械太　×座繰　○同細　△同中　＋折返シ

月次／項目	入荷	手合	賣了	引渡	輸出	地積渡方	産出國名	製造者	種別	高價	低價	
一日	九五〇	四六〇	一五三			九	周防	岩瀬	□	一〇〇〇	九五〇	休日前と變りなく手堅く保合へり
二日	五四〇	五九	四〇	一〇四			信州	宮澤	□	一〇〇〇	九五〇	上州南部産繰は前直より五圓高を示し
三日	六五〇	六〇	一〇一	七二	一	一	信州	日樂社	□	一〇〇〇	九七〇	他品は變りなし
四日	七四〇	五六六	一〇一	六五	六六	八六	岩代	木一人	□	一〇二〇	九七〇	弗々出來すれ場は變りなし
五日	六五〇	七〇	五三	六六	一一五五	四九	薩摩	三島	□	一〇〇〇	九七〇	前日同樣變りなく實行けり
六日	五九	六九	五六	四六	一一五六	四	上野	共同	□	一〇〇〇	九七〇	手堅く保合居り實行を繼け得るが如し
七日	一一一						伊勢	兒島	□	一〇〇〇	九七〇	賣應する適當品は買氣あり相場變りなし
八日	七四〇	四三六	一〇九	四	八	八	岩代	共同	□	一〇〇〇	九七〇	日曜日
九日	六六〇	一一六	五八	六	六	四	信州	出羽	□	一〇〇〇	九七〇	市況依然たる樣にて當用口弗々出來ざり
十日	六六〇	四四〇	五五	一一五六	一一三五	八	上野	上州	□	一〇〇〇	九七〇	電信不通の爲め商況靜かなりし
十一日	六五〇	一一六	五三	四	四	一	群馬	清水	□	一〇〇〇	九五〇	商談相應に行はれ適當品は幾分か手堅
十二日	八〇〇	一〇四	四八	六	四六	六	信州	岩瀬	□	一〇〇〇	九五〇	き狀況なりし
十三日	六〇〇	一〇〇	六三	七			上野	立木	□	一〇〇〇	九五〇	氣配は手堅く保合の狀況なりし
十四日	一一六六						武州	本二人	□	一〇〇〇	九五〇	上州南部産繰は前直より五圓高を示し
十五日	一〇〇五	一一〇六	一〇五	七	一	三	信州	岩代	□	一〇〇〇	九五〇	他品は變りなし
十六日	一〇〇五	一一六六	一〇六	七六	一	一	上州	金子	□	一〇〇〇	九五〇	弗々出來すれ場は變りなし
十七日	九三	九六	一〇六	七五	一〇	四	信州	白陽	□	一〇〇〇	九五〇	前日同樣變りなく實行けり
十八日	七四〇	四九	五四	一一四	四	五	出羽	牡丹	□	一〇〇〇	九五〇	手堅く保合居り實行を繼け得るが如し
十九日	六五〇	八四〇	一一四	八六	八	一	遠州	二人	□	一〇〇〇	九五〇	賣應する適當品は買氣あり相場變りなし
廿日	六六〇	一一四	一一四	八六	八六	一	天鬼	琴平	□	一〇〇〇	九五〇	日曜日
廿一日	六四〇	八四〇	八三	四	八	一	信州	信濃	□	一〇〇〇	九五〇	市況依然たる樣にて當用口弗々出來ざり
廿二日	六五〇	六六〇	一一〇四	一一〇九	一〇〇	八	出羽	要水	□	一〇〇〇	九五〇	電信不通の爲め商況靜かなりし
廿三日	一〇〇〇	六八〇	一一〇四	七	一〇〇	一	遠州	社二人	□	一〇〇〇	九五〇	商談相應に行はれ適當品は幾分か手堅
廿四日	一一九七	六七〇	一一〇四	七六	一〇〇	一	天伊	原社	□	一〇〇〇	九五〇	き狀況なりし
廿五日	一一九八	六六〇	一一〇一	七六	一一五五	一	長野	仲井	□	一〇〇〇	九五〇	氣配は手堅く保合の狀況なりし
廿六日	一一九八	七六〇	一一〇一	七六	一一五四	九	岩代	三社	□	一〇〇〇	九五〇	上州南部産繰は前直より五圓高を示し
廿七日	八六〇	六六〇	一一	六	一一	六	河内	田製	□	一〇〇〇	九五〇	他品は變りなし
廿八日	八九〇	一一九八	一一〇一	七四	一一		前橋	旭	□	一〇〇〇	九五〇	弗々出來すれ場は變りなし
廿九日	一一九八	一一九八	一一〇一	七四	一一	一	岩代	下仁	□	一〇〇〇	九五〇	前日同樣變りなく實行けり
三十日	九六〇	一一九八	一一〇一	七四	一一	一	五日	金子	□	一〇〇〇	九五〇	手堅く保合居り實行を繼け得るが如し
合計	三三五六〇	九九五六〇	一〇一七〇	七四〇	一一九七〇	九九〇	武州	木二人	□	一〇〇〇	九五〇	賣應する適當品は買氣あり相場變りなし
							上野	立木	□	一〇〇〇	九五〇	日曜日
							遠州	松下	□	一〇〇〇	九五〇	市況依然たる樣にて當用口弗々出來ざり
							江州	仁田	□	一〇〇〇	九五〇	電信不通の爲め商況靜かなりし
							武州	岩瀬	□	一〇〇〇	九五〇	商談相應に行はれ適當品は幾分か手堅
							上野	宮澤	□	一〇〇〇	九五〇	き狀況なりし
							信州	信濃	□	一〇〇〇	九五〇	氣配は手堅く保合の狀況なりし
							出羽	要水	□	一〇〇〇	九五〇	上州南部産繰は前直より五圓高を示し
							遠州	社二人	□	一〇〇〇	九五〇	他品は變りなし
							天伊	原社	□	一〇〇〇	九五〇	弗々出來すれ場は變りなし
							長野	仲井	□	一〇〇〇	九五〇	前日同樣變りなく實行けり
							岩代	三社	□	一〇〇〇	九五〇	手堅く保合居り實行を繼け得るが如し
							河内	田製	□	一〇〇〇	九五〇	賣應する適當品は買氣あり相場變りなし
							前橋	旭	□	一〇〇〇	九五〇	日曜日
							岩代	下仁	□	一〇〇〇	九五〇	市況依然たる樣にて當用口弗々出來ざり
							五日	金子	□	一〇〇〇	九五〇	電信不通の爲め商況靜かなりし
							武州	木二人	□	一〇〇〇	九五〇	商談相應に行はれ適當品は幾分か手堅
							上野	立木	□	一〇〇〇	九五〇	き狀況なりし
							遠州	松下	□	一〇〇〇	九五〇	氣配は手堅く保合の狀況なりし
							江州	仁田	□	一〇〇〇	九五〇	上州南部産繰は前直より五圓高を示し
							武州	岩瀬	□	一〇〇〇	九五〇	他品は變りなし
							上野	宮澤	□	一〇〇〇	九五〇	弗々出來すれ場は變りなし
							信州	信濃	□	一〇〇〇	九五〇	前日同樣變りなく實行けり
							出羽	要水	□	一〇〇〇	九五〇	手堅く保合居り實行を繼け得るが如し
							遠州	社二人	□	一〇〇〇	九五〇	賣應する適當品は買氣あり相場變りなし
							天伊	原社	□	一〇〇〇	九五〇	日曜日
							長野	仲井	□	一〇〇〇	九五〇	市況依然たる樣にて當用口弗々出來ざり
							岩代	三社	□	一〇〇〇	九五〇	電信不通の爲め商況靜かなりし
							河内	田製	□	一〇〇〇	九五〇	商談相應に行はれ適當品は幾分か手堅
							前橋	旭	□	一〇〇〇	九五〇	き狀況なりし
							岩代	下仁	□	一〇〇〇	九五〇	氣配は手堅く保合の狀況なりし
							五日	金子	□	一〇〇〇	九五〇	上州南部産繰は前直より五圓高を示し
							武州	木二人	□	一〇〇〇	九五〇	他品は變りなし
							上野	立木	□	一〇〇〇	九五〇	弗々出來すれ場は變りなし
							遠州	松下	□	一〇〇〇	九五〇	前日同樣變りなく實行けり
							江州	仁田	□	一〇〇〇	九五〇	手堅く保合居り實行を繼け得るが如し
							武州	岩瀬	□	一〇〇〇	九五〇	賣應する適當品は買氣あり相場變りなし
							上野	宮澤	□	一〇〇〇	九五〇	日曜日
							信州	信濃	□	一〇〇〇	九五〇	市況依然たる樣にて當用口弗々出來ざり
							出羽	要水	□	一〇〇〇	九五〇	電信不通の爲め商況靜かなりし
							遠州	社二人	□	一〇〇〇	九五〇	商談相應に行はれ適當品は幾分か手堅
							天伊	原社	□	一〇〇〇	九五〇	き狀況なりし
							長野	仲井	□	一〇〇〇	九五〇	氣配は手堅く保合の狀況なりし
							岩代	三社	□	一〇〇〇	九五〇	上州南部産繰は前直より五圓高を示し
							河内	田製	□	一〇〇〇	九五〇	他品は變りなし
							前橋	旭	□	一〇〇〇	九五〇	弗々出來すれ場は變りなし
							岩代	下仁	□	一〇〇〇	九五〇	前日同樣變りなく實行けり
							五日	金子	□	一〇〇〇	九五〇	手堅く保合居り實行を繼け得るが如し

月次	持越	入荷	賣了	積越	輸出
一月	一九、一七五俵	八、三五五半	一四、九三一俵	一、六三三俵	五、一七三俵
二月	一一、六一二半	三、五八三半	八、〇二八半	二、〇六七	四、五六五
三月	五、一〇〇半	四、〇三九	四、四九三半	八七四半	五、一三九
四月	五、九七八	六、二二〇半	八、一二二	一、二一四	五、〇四九
五月	四、五八九	三、四〇九	五、六三二	一、三七一半	五、一六六
六月	九七〇	二、六二九	九六四	五六二半	一、二三六
七月	二、〇七一	一六、四〇九	八、一一一半	九、四九五	二、四八四
八月	九、四九五	二、一一八一	一六、二〇五	一五九	七、二九六
九月	一四、〇六四	二二、五一六半	二〇、一六七	三五一	一、〇九七九
計	—	八八、三四三	八六、六五五半	九九二	四、五〇八七

●紐育市場（九月十二日報）

近時地方商人の當市組織物市場に入込みたるもの多く爲めに人氣益々強く取引高も著しく增加すると雖も是等の商人の語る處に據れば内地の在荷は略ぼ耗盡せられたるに秋季の組織物市場は稀なる好況を呈するの望ありとのことにして買人は直段に關せず買進むの風あり爲めに市場は更に一層の好況を呈するに至れり而して實行の最も多きは依然タフエタ機にして黑タフエタの如きは品切にて地方商人も失望を招きし程の有樣なり次は天鵞絨にして昨年度の冬季に優りたる流行を見るの徴行ありて地方に出發したる行商人は何れも前途の好望を報じ機業家は何れも全力を盡して織出に從事しつゝあり而して今や彼の四千の機癖を空しく遊ばしめたるユニオンヒルの織工のストライキも漸く鎮定して勞働力の方面には全く組業工事の妨げとなる可きものなく原料の費消は愈々確實に且つ增大ならんとする の形勢を示せり

●里昂市場（八月三十日報）

歐亞の生絲共今日の景況は製造家を始め生絲商に至る迄一樣に强氣を含み市況至極手堅し是日下市場の現狀なり機屋も今は止むを得ず賣人の云ふ儘の直段を拵ひ或は少しく高直をも承諾するに至れり左れば新絲開市只來茲に數月間製絲家と消費者との間に行はれたる戰爭も今日の商況より察すれば勝利は終に製絲家に歸したるやの觀あり然れ共亦製造家の內情を省るに今日の相場にて賣るも幸ふ下て仕入直を得るに過ぎざるべし獨り利益を得らるゝ望あるものは幸に爾か格安に取入たる連中より外あるべからざるなり現に今日の伊佛の個等生絲の市場に於て實買の割合の嗜に上らざるは爭覓するに以上の品に關の高直なるものを仕入て製造されたるが故に元價高くして賣り惡きの故に外ならず之に反し伊太利「ロンバルヂー」地方の製絲家は孰れも他に比し格安に關を買入たれば先物の約束實にて容易に注文に應下既に同地方の生絲家は孰れも他に比し格安に關を買入たれは先物の約束實にて容易に注文に座下既に同地方の生絲は過半賣り盡し貨荷物を所有し居る輩は前週の相場にて賣るものなき程の要なり

志眞絲は此處里昂に於る在荷高拂底を告たると亦先物の約束を承諾せんとする製造家の少なきより自然手合も沈靜となりたり亦是等製造家の過半は既に先賣にて自家の荷物を賣りたるあり目下望人の多きは歐洲眞歐及亞細亞の蠶絲共省營通品の細物なり而して從等の生絲は相場高直にして安物の組物を製造し能はざるより此處不味なり

●上海絲況（九月四日報）

去月初旬以來蠶絲市場一般の傾向は以前靖沈の有樣を持續し容易に恢復の緒に就く能はず甲白絲の如きは取引高實に僅少にして殆んど例年なる取引ありしと聞かず

の手合な生ㄒつゝ木年か通過ぜり

（數量單位担價格海關兩）

品名	三十年 數量	三十年 價格	三十一年 數量	三十一年 價格	三十二年 數量	三十二年 價格	三十三年 數量	三十三年 價格	三十四年 數量	三十四年 價格
白絲	三〇八〇一	九八五九九六	二九八一	八四九四八四	三九二一	三四六一四四	一六六八	三六六四六	八四四一	三六六四六
黃絲	八四九九	一九八一〇九八	八九四	三四九六四一六	一四九四	一四九四一四	一四九四	一四九四一四	一四九四	一四九四一四
野蠶絲	一三一六六	三四三一六六	一二七四	三四四三三一	一〇六一	三四六一六八	一四九四	一四九四一四	一四九四	一四九四一四
繰返絲	一二九四九	六三四四三三	一〇六一	三四六一六八	一四九四	一四九四一四	一四九四	一四九四一四	一四九四	一四九四一四
上海蒸汽器械絲	一一四九	七四六四〇	七二〇	四六六四六六	一一四三	八三六六六一	一四九四	一四九四一四	一四九四	一四九四一四
其他各地同上	九一	三六四三〇	八四	三六三四三一	一四九四	一四六四一四	一四九四	一四九四一四	一四九四	一四九四一四
二子繭絲	八	一一九一	八	六七九四	三六七四	三六七四一四	六八	一四九四	六八	一四九四一四
繭屑繭	八八四四	三四〇三〇九	九七六九	一四六八六六	九九三四	一四六八六六	九〇六	八一四八一	九六四六	九六四六一四
屑絲	三六九一	一八六七三四一	一八六七三四一	四一七四六	三一六六七六	四一七四六	三一六六七六	三一七四七一	三一六六七六	三一六六七六

備考　繭殼は屑絲の中に算入せり（担以下は四捨五入せり）

尙各國輸出別を表示すれは左の如し

輸出先國	生絲	黃絲	野蠶絲	繰返絲	蒸汽器械絲	二子絲	計	繭	屑繭	繭殼
英國	一三〇〇	三四	一六六	六		二四九七	二四九七	一	七六八一	一
香港	四四三五	六一	一			四四五	四四五			三五
印度	一四〇一	六一六六	一二四			一七六〇	一七六〇		一七六	九七
海峽殖民地	九一	一				一	一		一	七九
米合衆國	一四四	四〇	八六六一	六二八		一二六三五	一二六三五	一	一六六四	四八
墨國										一四四
埃及	八八七	一七四四	六一			四一七四七	四一七四七	八		

品名	三十四年 價格
白絲	三六六四六
黃絲	一四九四一四
野蠶絲	一四一二八
繰返絲	七八八六七四
上海蒸汽器械絲	一四九四一四
其他各地同上	一四九四一四
二子繭絲	三六六四
繭屑繭	一四九四一四
屑絲	一四九四一四

輸出先國	野蠶絲	繭	屑繭	繭殼
英國	一六六八	一		三五
香港				
印度	一	七九		
海峽殖民地				
米合衆國	一六六四	一	四八	八
墨國			四四五	
埃及		八		一九一

◉外報（Nouvelles étrangeres）（Foreign News）

佛國

伊國	七六九九	三三四	一	一	一	一	一	一六	一六六九	四〇一
日本	一三五	四〇	一〇一三	一〇四〇	一	一〇三六	六五五	三四一一	三	
墨西哥	二八	一	一	一	一	一	一	一	一	一
波斯	一九	一	一	一	一	一九	一九	一	一	一
露國（オデッサ經由）	四八〇	三三九	一	一	一	一八〇	一八〇	一四一	一	一
西班牙	二〇	六三	一	一	一	一	八三	一	一	一
瑞西	六三	一三	一	一	一	一	六一	六二	一	一
亞細亞土耳其	一四三	九六	一四六〇	一四六〇	一	一四六〇	一四六〇	一四三	一	一
以上計	三四四四	一四六四	一四六〇	一四七四	七	六六六四四	一四〇三	四八三	六六六六	一一四一〇
清國（輸出高）	二一〇	一一一一	四四八	一	三三	一八三四	七二	一	二一	七八
合計	三六六三	一四三六	一六三四一	一四三七八	六〇	七一六六八	一四一一	四八三	三六六七	一一六八

近來米國の養蠶熱の流行せることは屢々本報に記載せし所にして其後の報道に據れば同國の農務大臣ウィルソン氏は熱心に斯業を奬勵する處ありて其成功を信するものゝ如しと云ふ氏は豫て氏が奬勵したる同國製茶業の好結果を奏し現に輸入茶よりは高直に賣行きつゝあるの事實を以て見るも世間の望むが如く輸入絲に關稅を重課するを要せずして發達の見込ありとの說を某國會議員に語りたる由にて南部諸州の如き勞銀の安き處にて未丁年者及び黑奴をして斯業に從事せしむるに於ては成功を見ることなしとも限られざるなり又ワルデン、ホーセットなる人は此事につき米國學藝雜誌に於て茶摘に於けるが如く十人の子女をして桑葉を摘採せしむるに於ては之又妙

なるべしと說き且つ南部諸州には天然のオーセーラオレンヂ樹多かれば桑樹の成長を待つの要もなかるべしと云へり斯る有樣にして養蠶業には十分に成効の見込あるを以て此際製絲法を改良して自動製絲器械の發明を爲し得るに於ては米國は世界の重要なる養蠶國となり得べしとの說を爲すもの多く目下斯業の發達に熱中せる地方はサウスカロリナ州のチャレストン、カリフォルニヤ州のサンヂエゴー、紐育州のオレンヂカンツリー及びウタ州の各部にして此度の蠶業熱は從前のものに比して遙かに甚しきものなるが如し云々とありたり

◉本年度世界牧繭額の概算

佛國里昂蠶絲組合の報告によれば本年に於ける佛國及自餘蠶業國牧繭の概算は左に列擧するが如し

一、佛蘭西主要養蠶地方なる八縣下の養蠶村區七百四十五ヶ所に於ける本年の牧繭秤定額は之れを客年分に比すれば一割二分の減作を示せる事左に表示するが如し

縣名	養蠶村區の數	一九〇一年	一九〇二年	百分率（＋は增△は減）
		基	基	
ガール	一〇	一四六八三八	一三六四七五	△ 一四六七
アルテーシュ	一三二	一四四六六二	一二四四七六六	△ 一六一四
ドロー	一三二	八二四六六六	七六六三六六	△ 九六四
ヴオクリューズ	八	七二一四四〇	六七七四三三	△ 八九九
ザヌール	三二	二六四八四二	二六八六六四四	十 八九五
井セール	七八	一六六六六九	一四六八二五五	△ 二五二五
ブーシュ、テコ	三九	三一〇六四〇	一六八六六六	△ 一九九七
ローヌ	四三	一一〇〇一〇	一一六三六六	△ 六六一
エロール	五五	五三一〇六四	四一六六七四	△ 三一二
計	四五五	五四一〇六四	四一六六七四	△ 三一二

佛國客年の總牧入高八百四十五萬千八百三十九基に對し前記一割二分の減率を適用するときは本年の總牧繭高は七百四十一萬基に降るべしと雖も本年に於ける收獲繭の生絲量割合の增進は此減作を多少補ふ處あるべし

二、伊太利　本年の牧繭高は客年分より寡ろ少しく增作の方なり而して新繭全體の生絲量割合も亦た少しく增進の方なれども生絲總產額は客年の三百十一萬千基に比し五分乃至一割の增加を示すに至ちん

三、西班牙　客年分（生絲產額八〇、〇〇〇基）より稍劣るべし

四、墺地利、匈牙利　客年（生絲產額四十一萬八千基）と殆んど同額或は寡ろ少しく增額の方なちん

五、プルース及びアナトリー　昨年の生絲產額四十一萬八千基に比すれば少しく增加すべし

六、西里及びシーブル　本年の牧繭は客年分より一割五分乃至二割の增作なるべしと雖も許多の內地製絲場が閉鎖するに至りたる結果として本年の生絲輸出額は蓋し客年分を廻過するこなかるべし是に反し乾繭の輸出は客年より一層多額を示すならん但し客年の生絲產額は四二五、〇〇〇基なりき

七、サロニック、アンドリノープル、ブルガリヤ、セルビヤ等　本年に於ける養蠶成績の實況未だ審かならざるを以て里昂蠶絲商組合は客年分（生絲產額二九六、〇〇〇基）と殆んど同額なるべしと假定せり

八、希臘及クレート　客年分（生絲產額六〇、〇〇〇基）より少しく劣作なるべし

九、高加索　客年分（生絲產額四四〇、〇〇〇基）と殆んど同額なるべきも增額なかるべし

十、波斯及チュルケスタン　波斯本年の增作はチュルケスタンの不作を償ふに餘りあり兩地方に於ける客年の生產額は二五五、〇〇〇基なりき

十一、上海　本年は白絲に凡そ二割即ち生絲五〇、〇〇〇基相當の減作を告げたり客年の輸出額は五、〇六〇、〇〇〇基を以て數へられたり

十二、廣東　最初四期の收獲概算額に從へば本年の輸出額は客年分（輸出凡二、一八九、〇〇〇基）より少くとも一割の增額を見るなちん

十三、橫濱　客年度の輸出額は七一、四〇〇梱、此量數四、四二五、〇〇〇基なりしが本年度分は七〇、〇〇〇梱乃至七五、〇〇〇梱なるべしとの見積なり

十四、カルカッタ　本年度の輸出額は客年度の二八〇、〇〇〇基と稍や同額なるべしとの見積なり

要するに本年の世界牧繭に對する生絲製產額即ち本年蠶業年度間（本年七月より來年六月に至る）に於ける蠶絲供給額は客年度分の一八、〇一六、〇〇〇基と先づ同額なる可しと概算せらるゝところなり

◉暹羅の養蠶事業

暹羅の養蠶事業は甚だ幼稚にして品質粗惡なるが故に一担（十六貫）僅に六十圓乃至百二十圓の市價を有するに過ぎずこれ日本絲の價格に比して漸く十分の一に當るものなりとす而かも茲に笑ふべきは一昨年の如き同國が輸出したる生絲の總額は一担平均百九圓の粗品一千二百一担なりしに拘らず同國へ輸入せられたる外國生絲及絹布の總價額は十五萬餘圓の多額に上りしとの事なり

◉清國重慶府の蠶業

清國に於ける生絲の產出は四川最も盛にして貴州之に次ぎ又重要物產の一にして嘆地方の需用のみならず下流各地は勿論遠く廣東市場に供給せらるゝこと夥し殊に四川省璧山縣保寧府產は近來上海市場を經て海外に輸出せらるゝに至る元來其絲質の良好なるは一般の認むる處なりと雖も育蠶絲等凡て舊慣を踏襲し巷も改良を施さざるを以て今日の製絲には海外輸出品として海外機業家の用途に適し

得さるも今後の改良次第にて世界の市場に於ける本邦品の勢敵たるは又疑なかるべしと本邦蠶業筆機業家等の觀察すべきは單に海岸線のみに非ずして巴蜀の地に入り探究以て他日の需要を講ぜんことを要す後の我都府に於ける蜀錦、巴緞、湖羅、綾子、保寧府に於ける大綱、嘉定府に於ける生絲（薄絹にして夏の衣料）及大綱雲南に於ける絹紬紬緞、貴州に於ける紫府綢等は其製品比較的巧妙なるのみならず價格低廉なるを以て其產額甚だ多し且需要の廣き何れも皆其地方に於ける生絲を原料として製出したるものなり

今重慶稅關により蠶絲及繭綢の前二年間に於ける輸出高を揭ぐれば左の如し

種類	一九〇〇年 數量	一九〇〇年 價格	一九〇一年 數量	一九〇一年 價格
	担	兩	担	兩
生絲、白	五	一〇一〇	四八	二、七三五
同黃	四、一四四	三、三五九、六三五	三五五	一、一五四、六八六
野蠶絲	二、二二	六六、六三五	六六五	七七、七三五
屑蠶絲	八六八	一四、八三一	一、一四八	二四、一四四
野蠶繭	八、四四五	二、一四、一四五	二、一二六	二、一二六、一六〇
蠶繭	五五	一、一四五	一、一四五	一、一四五
計		九三、〇八〇		一、五五、三九一、三九〇

本年は乾燥殊に甚だしき爲めに蠶絲な生じ昨年に比し一割位は減少したるべく爲めに生絲の市價も多少上向き去る七月中の如きは壁山縣產の如きは一兩匁の相場銀二匁〇五厘に騰貴したりしも其後上海市場の不味なる爲め銀一匁九分落に後戻りたり今日の相場な昨年同時に比すれば左の如し

種類	本年八月末日相場	昨年八月末日相場
壁山縣北部	匁分厘 一九六	匁分厘 一八八
壁山縣北部	一八五	一八〇

合州	一八二
保寧府	一八六
貴州省正安府	一七二

（備考）相場は一兩匁に對するもの日本の百匁は重慶の十兩四匁一分五厘に當る

◉歐米各國蠶絲消費近況

歐米及其他の諸絹業國に於ける蠶絲の消費及佛國輸出入品價格調査委員の年報中に揭載せる重要諸國の稅關統計（佛國の稅關統計とは少差あり）に因れば年々著しき浮沈あるを見る即ち試に千八百九十五年より千九百年に至る六箇年間歐米及其他の諸絹業國（支那、日本、中央亞細亞を除く）に於ける年々の蠶絲消費高を擧くるに左に表示するか如し（但表中千基を以て單位とす）

	一八九五年	一八九六年	一八九七年	一八九八年	一八九九年	一九〇〇年
佛蘭西	一、八四二	一、八六四	一、八七七	一、八六六	一、八三三	一、九〇〇
北米合衆國	四、六六一	四、九八〇	四、九七七	四、六六六	四、七〇〇	四、七三三
獨逸	二、三三五	二、三三五	二、三六六	二、八九五	二、八三五	二、八三五
瑞西	一、六八九	一、四一五	一、八六六	一、四四五	一、四四五	一、四四五
英吉利	九、八〇〇	九、一〇〇	九、三〇〇	一〇、〇〇〇	八、八〇〇	八、八〇〇
墨國	六六、〇	六六、〇	六六、〇	六六、〇	六六、〇	六六、〇
西班牙	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇
伊太利	九、八〇	九、八〇	九、八〇	九、八〇	九、八〇	九、八〇
露西亞	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
英領印度	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇
其他諸國	六六、五五五	六六、五五五	六六、五五五	六六、五五五	六六、五五五	六六、五五五
計	一、八四、八三一	一、八四、八三一	一、八四、八三一	一、八四、八三一	一、八四、八三一	一、八四、八三一

諸絹業國に於ける年々の蠶絲消費は前表の如く增減ありと雖とも每三箇年間毎を算し以て蠶絲消費の大勢を觀察するときは前回報告せし如く復た增進の趨勢あるを徵すること即ち左表に示すか如し（但表中千基を以て單位とす）

	自一八九五年至一八九七年 百分率	自一八九六年至一八九八年 百分率	自一八九七年至一八九九年 百分率	自一八九八年至一九〇〇年 百分率
佛蘭西	一、八四二	一、八三三	一、八三三	一、八三三
北米合衆國	三、六六一	三、七〇〇	四、〇一〇	四、〇一〇
歐洲（佛國ヲ除ク）	三、五五五	三、三〇〇	三、三六六	三、三六六
其他諸國	一、〇〇〇	一、〇〇〇	八、八〇〇	八、八〇〇
計	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇

右表によれは佛國は前記六ヶ年間寧ろ退步の狀あるに反し北米合衆國及其他歐洲の諸絹業國か地步を進めたるを見るか如きは即ち近年北米合衆國か東西の生絲市場に及す可き影響の著大なる所以を證明するものなり

◉雜報（Nouvelles diverses）（General News）

絹布稅に就て

近來海軍擴張問題の喧傳せらるゝと同時に其稅源として地租總續の外に更に絹布稅を起して之に充てんとするやの說を傳ふるものあり之に就き其實業家の意見なりと云ふを聞くに元來本邦に於ける絹布の製造は重に地方農家の副業にあらざれば何れも小仕掛の製造工場に於て行はるゝものにして法人組織の大工場に大資本を卸して盛に製出するものゝ如き極めて稀なるの事實は之に從事するものゝ數が二十萬戶以上五十萬人以上と稱せらるゝの一事に徵するも既に明なるの數なり從て之より微稅の方法として若し製造元に其稅を賦課すべきか假令ひ此種の稅其ものが消費稅なりとは云へ小製造者は能く其稅金を前納するの資力ありと見る可からず果して納稅に堪へ能はずとせば前記數十萬の小製造家中其大部分は遂に其業を廢するの已むなき場合に遭遇すべきことを豫

想せざる可からず殊に其税額にして一の有力なる財源と見るを得べき程度までを標準とせざるか價格の騰貴を増加して益々自國の産業を衰廢せしむるに終らんとす尤も斯の際に處する方法としては國税率を改定するの一事ありと雖も毛織物に對する關税率の改定は協定主義に基づけるが故に之を更定すること亦決して容易の業にあらず是れ其曾て憲政黨内閣の當時一たび之を調査攻究したる以來殆んと其說を唱ふるものなきに至れる所以なれども今尚ほ動もすれば之を以て好個の税源と心得居るものゝ存せるは要するに深く研究せざる皮想の罪ならん云々

◎工場法案制定に關する上申

横濱貿易研究會にて工場法案制定に關し左の上申書を當局者に差出せり

只ゝに聞く我政府は工場法の制定を急ぎんとし既に其考案を了し之が起草に着手し時に今期議會に其法案を提出せられんとすと嗣ふに我國工業の發達に今尚ほ幼稚の時代に在り歐米諸國の工場の組織に其規模極て狹小且不規律にして歐米諸國の工場と同ふして語るべからず此時に當り工場法を制定し諸般の工場を一律の下に監督するの得策なるや否は大に實際家の論究を要すべき重要問題なりと雖も姑らく之を措き前も政府に於て其必要なるを認め之が制定を急ぎ速に付ては本日は進めて其希望を上申するの至當なるを信ず抑も工場法の規定如何は直接に我國工業の發達に影響し生産力并に其費用の増減を保ぜざる迄も其低生下一般經濟界に至大の關係を及ぼすなき為保ぜざる迄以て該法案の内容如何は當に工場主勞働者等の鶴首して速に之を見んとを欲するの為ならず一般貿業家の等しく耳目を欲て、聞かんと欲する所なり法案に所謂工場なる者は家族的手工場に至る迄等しく包含せしめらるゝや工場の建物の方法は諸般衛生的設備に於て別段ずる所なしと假定するも現狀に比し果して必要の設備なるや否や又勞働時間の制限夜間就業の禁止の年季に依り束縛せらるゝ者と月給若くは日給にて働くせらるゝ者と勝た又時間に從ひて其勞銀如得るものとに依り其規定か異にせらるや否や政は徒らに勞働者身体の痛苦を與ふるの結果を生ずることなきや寄宿舍浴治の制度は事業の性質勞働者の家族の有無、生活費用の増減其他諸種の事情に關せず一般に之を廢せらるゝや否や疾病及び幼者、雇傭の制限は事業の種否種易等諸般の狀況を勘酌して區別せらるゝや否や且つ又工場の監督方法は勞働者從來の習慣に背馳する所なきや共濟保護の制度之を勵行するが爲め勞働者各自の實收を減ト自然偏方に於て苛刻の負債を生ずしむるの程度に至らざるや否や此等諸般の問題は要するに法案の内容如何に依り決定せらるべきものにして其規定若し宜しきを得ざれば一弊を除去し却て百害を助長するの結果を生ずるに至るべし蓋し政府の明深く我國の實狀を精査し工業社會に激變を與ふるが如き規定は必ず之れ爲さるべからず也し工場法案の所定如何は前陳の如く貿業社會に至大の影響を及ぼすべきものなるを以て愛心神を清くし能は寸毫に上申するの止むを得ざるに至れり翼くは閣下本會の微意を採納し議會提出に先たち速に法案内容を明示し廣く民間實業者に向て諮問するの策を採られん事を

を

所謂工場法案なるもゝ内容如何なゝ點に存するやは未だ仔細に知ること能はざれども何れにせよ營業者に對して出來る限の關係有せる事と存じ、此の業務は之を今日にあり乍らも世間營業界に於て是非の問題喧しきは理ならぬ次第なるが右に述べ主製絲業の話る處に據れば第一飲業問の點に於て若しも或る程度以上制限を加ふるときは雇主は勢ひ工女の就務に對し義重の監督を加へ、右の時間内は充分出來得る間りり勞を取らしめざるべからず之が爲めには工女の性質として自然堪え難き場合の生ぜずとも限ず殊に乳兒を持てる工女の如きは到底其務に當り得ざるものを生ずべく或は一方にあり乍ては過ひて工女の如きを傾さ為起すべく第二食年後の休憩時間を増すときは只時間の徒りするのみならず機絲中の繭に害を及ぼして歐米に絲質を不良なしめ製絲の經濟に影響を及ぼして至らべく第三建物に就ては設備に若しも嚴重の規定を加へば小資本のものは到底其經に當る能はざるべく假令資本の豐富なるものと雖も固定資本に就る程度以上の費額を投ずるときは到其利益を見る事能はざる事明既に其側に乏しからず第四工女の年期契約を許さざるの事もあれば工女の養成なるものは到底爲に出ざるべく既に今日にありても其養成の不經濟なるが爲めに鼓ひて之を誘致して他の工場に在るものを奪略するの弊風あり若しも斯の制定か見る假令如何に其監督方勵行せんとするも地方の隅々に偏ぜず小規模のものに迄到底之を及ぼし得ざるが爲めに暴覺其名ありて實の伴はざる結果を起すが然らざれば違犯者を續出して頗る其法匿に窮するの結果となるに至らん以上の如き各種の弊害は到底免れ難きものなれば立法の局に當るものは矣々も愛に三思する所ありて可なるべく勿論當業者の位置としても全然之を非認するものにはあらざれど又利益よりも大なるは必然なれば宜しく此等の點に關酌を施ひ之を着し也之なる改むるにせよ徐々に其順序を踏むの態度を以て強ひて既に慣れ来たれる當業者を苦しましむるの為めなるべからずして只將來の趨向に對し機下の其方針を示し自らも之に發ひしむるの趣意を以てせば比較的其宜しきを得て結果亦自ら良好なるべく之に反して若しも此際其制定を宜しきを得ざる時は全國一律の下に之を服從しめんと計るときは到底其弊に堪へずして國内の製絲業は勢ひ著しき退歩を來し伊佛政は清國等と相對して競爭に當ること能はざるの非運を見るに至らん歟と云ふ

◎工場法案に就き當局者の談

横濱貿易研究會書記長兒玉亮太郎氏が工場法案及び生絲檢査料徴收の件に關し反對の意見開陳の爲め此中上京せし由なるが該法案の立案者たる寺田工務課長が之に關し談話せし要點は時節柄參考となすべき

一、工場法案は成るべく現狀に適合せしむるの趣意にて制定し見そ十年乃明間とし漸次に改善を行ふ積なり

一、時間の制限は世間に云ふ如く窮屈なるものにあらず先づ工場の種類を二種に區別し原動力を使用するものと使用せざるものとに分ち或る場合に限り多少礙更し製絲事業の如きは原動力を使用するものと之を紡績業には原動力を使用せざるものとに同樣の取扱を爲し時間の制限を異にする積なり但時間は現に行はれ居るものに準ず十四五時間とし原動力を使用するものは十四時間使用せざるものは十五時間乃限

度とし那繁忙の期節に限り十六右時間に延長するを當分は八才以下の小兒の使用を禁ずるを當分は八才以下の小兒の使用を禁ぜんとすゝ[illegible]製造業者中幼者使用の禁止に同意するも少からず

一、工場の窮窘舍を廢止せしむるが如くに云ふものあれども誤れり斯は現狀の狀態に委する積にて廢止のきは云ゝとして行ふべからずと信ずるなり

一、勞働者の教育貯蓄奬勵の如きは法律を以て規定せず

一、現時勞働者屋入の奬勵に於ては種々欠點あり工場に於て勞働飲食起居等の如きは局外者より注意を要すべき點少からざるが故に雇主被雇人の利害公平に審査し法律制定せんとす

一、現に如くに推進むときは社會主義を形成し勞働者は雇主に對し誤信の要求を爲すに至り急劇の要求より雇主は迷惑を惹起するが如き慨なしとせず故に今日に於て猶速却の工場法を發布するは將来困難なる問題を惹出すに至る多少の功なしとせざるなり

一、今國の工場法案は雇主被雇人とも相方の利益を保護せんとの目的なれども實施の結果或は反到の現象を呈し雇主側よりは社會主義的趨味を帶ぶるものと見做され勞働者側よりは却て雇主の利益を計るものと見做さるゝを以て即ち二者の中間に立ち公平を維持せんが爲め政府は工場法案の提出せらるゝに決せざる容なく中に商業會議所の如き團体に向て諮詢するの止むを得ざるべし

一、現に諮詢するも公然諮問せず何となれば私人の團体は資格不明なる上中に諮問して乙に諮問するとの云偏頗の疑を招くの虞あればなり

一、横濱貿易研究會の如きものは政府に申し出り尤らるれば參考として採用すべし又一已人余の如きものを招きて差支なき限りは參考に吐露すべし横濱貿易研究會に希望の一問題あり矣れは工場に於ける休憩時間に吾々の案によれば勞働時間の長短により休憩時間を伸縮し左の如く規定せんか

十時間以内の勞働（鐵工場の如き）　四十五分
十二時間　一時間
十二時間以上の勞働　一時半

右の如く定むるも休憩問題は更に詳しく調査研究せん積なれば十分に調査されんことを望むなり製絲業者の言によれば製絲工場にありては勞働者の休憩に甚だ困難なりとの事なれども其事情に鑑み實驗家の評議なる調査ありたるものなり云々

◎生絲檢査料徴收の義に就き上申

政府が生絲檢査所の檢査手數料を徴收せんとするの議ありと傳ふるを以て機濱貿易研究會は左の上申書を當局者に差出したり

政府は明治廿八年八月發布の法律第三十二號生絲檢査所法中の規定を改正し從來無料なりし生絲檢査に對し檢査料を徴收せんとするの議ありと傳ふるものあり此事者し派路の設に止まらざ可なり不幸にして詰法の改正に伴い檢査料徴收の實行を見るが如き事あらば其影響其だ憂慮すべきものあり生絲檢査所は明治廿九年の設立に係り歳月を經過する未だ多からざれども今日に至ては生絲檢査所の成績は稍々内外商人間に信用を博し來り檢査請求の件數の如き年々著しき増進を示せり試みに檢査所開始の當年即ち明治廿九年以來年々の檢査件數を見るに廿九年に於て九百七十八件なりしもの三十年に至て二千四百五十二件に増加し三十一年には四千六百四十八件、昔二年には八千八百五十八件、昔三年には九千四百十八件に進み昨昔四年の如きは大に増加して三万一千九百〇一件となるに於て昔三年に比して實に十分三割八分七厘強の増加となるものなり、生絲貿易額の増進と共に檢査請求件數の斯の如き増加を見る至れるは誠に自然の勢なるが如し且つ如上の生絲檢査所に於ける檢査成績の如何に自然内外商人間に重ぜらるゝに至れるを察するに足れり云ふ迄もなく我國輸出品の大部分は生絲にして内外商人は既に十分其品質の良惡に溶すること為信るが故に現狀の如くにして進まば檢査請求の件數今後益々増進し當業者は製品の眞否を判別し之が改良を圖るの利便か等々すると共に生絲貿易の盛況を見るの期して待つべし然れども若し今に及んで檢査料を徴收するとせば其結果如何なるべきか、蓋より檢査料徴收の目的は國庫收入の為にあるが得すしるあるべし、而して

◉大日本蠶絲會下野支會第三回繭蠶種品評會規則

第一條　當會開催期日及會場は左の如し
開催期日明治三十五年十一月二十二日より向三日間
會場　安蘇郡界村大字馬門二番地

第二條　大日本蠶絲會員は勿論會員外と雖とも出品することを得

第三條　出品は總て出品人自家の製産に限るものとす

第四條　出品は當會に於て成るべく叮嚀に保護すべしと雖とも非常の損害は其責に任ぜず

第五條　會場整理出品陳列等に關する一切の事務及費用は當會に於て負擔す

第六條　會場は公衆の入觀を許す毎日午前八時に開き午後四時に閉つ

第七條　出品の數量及種類左の如し
繭壹升　蠶種普通製一枚　框製二枚

第八條　出品は當會の費用を補ふ爲め總て當會に寄附するものとす

第九條　出品は明治三十五年十一月十五日には必ず到着する樣會場に宛て發送せらるべし

第十條　出品運送費は總て出品人の負擔とす

第十一條　出品人は必ず一品限り左の書式に據り其出品の名稱數量及住所氏名會員の種屬等を詳記したる目錄を出すべし又可成其品に關する由來種類風土收量飼養製造損益從來受賞の有無等發明等に係る解說を別紙に認めて遞送せらるべし

目錄

一品名	數量	住所	氏名
右出品候也			

大日本蠶絲會下野支會品評會事務所宛

第十二條　出品は審査委員之れを審査し其優等なるものには左の四等に區別し褒賞を贈與す
壹等　銀盃　貳等　圖書又は器械
三等　圖書又は器械　四等　褒狀

第十三條　審査委員長及審査委員は本會に於て本會技藝委員若しくは斯業に熟練なるものを選定して之れに委囑す

第十四條　壹人數品を出すものにして二品以上優等の品評を得たるものあるときは其優等のものに限り賞品を與へ他は褒狀を與ふるものとす

第十五條　審査に不服を唱へ又は再審査を乞ひ或は褒賞を返還することを得す

◉富山支會品評會概況

本會富山支會第一回蠶種繭生絲品評會は八月二十三日より同二十五日迄三日間婦負郡八尾町縣立農學校分校に於て開設せり其出品點數蠶種二百四十五點繭二百四點生絲二十點合計四百七十四點外に縣下稚蠶飼育場より參考品として繭三百點を出品せり而して審査は左記の諸氏其任に當り二十三日より二十五日に至る三日間に之を結了し二十五日褒賞贈與式を擧行せり

審査員長　富山縣農事試驗場長農學士　本多菊吉

審査員
中田寅吉　本波慶太郎　中野宇平
沼田平作　藤井文三郎　大森鐘一
五十嵐幸造　平野守一　長瀨修平

會場は同校門前入口には綵門を設け大日本蠶絲會富山支會と記せる額を掲げ國旗を交叉し校前には世界各國の國旗を富士形に釣り校の入口には幔幕を張り南側養蠶室を以て當日式場に充て内外の裝飾等萬事能く整頓せり時八時を報ずる頃より知事代理松田參事官前田婦負郡長其他來賓諸氏來會列品を參觀せられたり此時參會者陸續として來集し滿堂人を以て埋むるに至り午前十時第一振鈴にて出品人着席第二鈴にて來賓着席第三鈴にて加藤幹事長先導にて知事代理松田參事官以下着席せられ支會幹事長本縣第四課長加藤則有氏起て本會開設の趣意及褒賞贈與式を擧ぐる事を述べ次て審査長農學士本多菊吉氏は左の審査成績の報告をなせり

審査報告

本會の出品は繭蠶種及生絲の三品にして繭は其外品點數二百四點人員百八十三人蠶種は出品點數二百四十五點人員百九十五人生絲は出品點數廿五點人員廿二人なり從に褒狀の贈與か原するに力り各品審査概評為述べんに

繭は其品質佳良なるもの多かりずと雖も形狀不整色澤不良繭層薄弱にして乾燥貯藏其宜しきを得ず政は已に殺菌の使す所となり繰絲に適せざるもの多かりしは甚だ遺憾とする所なり是れ一は本年の氣候實蠶に適ぜざりしものに依るべしと雖も一は又當業者飼育方法等の熟練せざるにも依るもの多きが如し蠶種は近年漸く改良を來するもの多きなり雖も尚て其色澤の產附に注意し一層の改良を要するに今個の出品しきあり格安束裝等亦注意すべきもの多し之を要するに今個の出品は各品共に見るべきものなきに非ずと雖も尚大に改良の餘地あり存す

以上各種出品物に付審査員諸氏と共に審査を遂け優等者繭に於ては百廿八點蠶種に於ては百八十三點生絲に於ては十七點を撰拔したり依て玆に褒狀か贈與あらんことを嘱請す

大日本蠶絲會富山支會第一回繭蠶種生絲品評會審査長
富山縣農事試驗場長　本多菊吉

八月廿五日

次に松平大日本蠶絲會長代理として川島農學士より三百九通の褒狀をそれ〳〵贈與し了りて氏は又會長代理として左の告辭を朗讀せり

告辭

大日本蠶種會富山支會第一回蠶種講生絲品評會出品の際甚全く結了し朝野紳士の來會を辱し本日から以て褒賞贈與の式典を擧ずるみ得たるは洵に本會光榮と云ふべし然る現品に就て之れを觀察するに優劣不良なるものありと雖も其改良進歩の跡かゝ見れ如きは當事者の奬勵其宜しきを得たるに因るべしと雖も抑も亦出品人諸子の勵精せられたるにあらずんば焉ぞよく此の如き得んや然りと雖も蠶絲業の始は遠遠にして之れが効績の顯るゝ尚容易の業にあらず諸子之に安んぜず益々奮勵以て邦家の爲めに斯業の隆盛を期せられんこと當望に堪へざるなり聊か以て告辭となす

明治三十五年八月廿五日　　大日本蠶絲會技藝員　從七位　川島勝次郎

大日本蠶絲會長代理

次に本縣知事代理として當日臨場の松田參事官は左の告辭を代讀せり

告辭

五畝の宅樹ゆるに桑を以てすべきは上古既に先聖の唱道する所今や蠶絲の重要國産たる時に於て其の生産に努めざるべからざるは言を俟たず然れども組織の粗製は益も減じむべきみならず品質評定其の良なる爲めに不良者をしむるの要あり大日本蠶絲會山支會茲に初めて其品評會を開く蓋し尠少なりとせども常に希くは依て以て一層の改良を期へ將來益々蠶絲の聲價を高むるに共に此會の開催か果れて愈々果か終に歪らんことを一言以て告辭とす

明治三十五年八月廿五日　　富山縣知事正五位勳四等　小倉久

次に出品人惣代富川治平氏は左の答辭を朗讀せり

答辭

賢明なる小倉久知事閣下此校に親臨して當支會品評會褒賞贈與式を行ひ且つ生等に勵まるに遠大の望かを以てせらる生等豈に永く銘せざらんや閣下遠方蠶絲業に注ぎ保護の道至らざるなし是れ我等の每に人に語て榮とする所なり今日此盛典に遇ふことを得るもの蓋し閣下の保護厚きことなくんば安んぞ此に至らんや嗚呼之を享くる者は之に報いて益々奮ひ之に堅らさるを誓ふ反省して自ら勵精當に奮勵し以て閣下の希望に應ずべきのみ謹て褒詞を陳ず

出品人惣代富川治平

右終りて八尾町長大友準梧氏は一場の演說をなしそれより村杉同會幹事は諸方よりの祝電を朗讀して此に式全く終りを告げ一同退場直ちに陳列場巡覽を終り一同再び席設けの席に着するや茶菓を饗し一應散會次て當支會の總會を開き出席者五十餘名にして本年四月以降の事業成蹟に就き報告し次に評議員補缺選擧を執行しそれより豫定除に關する取調の件及規則改正の件等重要事項を議決し終りて豫定の如く川島京都蠶業講習所技師の蠶業講話會に移り頗る盛會にて午後五時閉會を告げたり

本會には各郡より當業者の來會せしもの多數なりしを以て之を機とし同日午後六時より八尾町大字西町翠明樓に於て懇親會を催せり開會に當り長瀨修平氏は發起者一同に代り開會の趣旨を演說しそれより各自献酬互に胸襟を開き養蠶製絲上の談論を擅にし午後九時三十分和氣洋々の間に散會をなせり

◎山梨支會の總會

山梨支會に於ては本月四日其總集會を開き諸規則の改定並に役員の改選を執行せるが幹事には青木寛、桑原德長、齊藤道太郎、志村政誠、原耕、古屋正、今井保一郎の諸氏當選し次て縣下各實業團体と脈絡を通するの件、來月十五日開會の全國蠶絲大會支會代表者を出席せしむる件、支會技藝委員の派遣手續を定むるの件、蠶病消毒法を普及せしむる事を郡市農會に建議の件、支會の總集會及物產共進會を順次各郡に於て開催の件、本年春季凍霜害の顧未を編纂するの件を協議し終りて議員を撰定せり同支會は從來兎角不振の評ありしが今後會員一同協力して大に活動する所あらんといふ

◎岐阜縣可兒郡農會蠶業講習所の卒業式

同所は本年の設立に係り南京蠶業講習所と系統的組織となせるものにして大谷產一郎氏之が教鞭を採り講習期限を六ヶ月間とし學理及實地の教授をなせるが九月二十六日を以て第一回卒業式を擧行し笠井本縣書記官野呂縣會議長山本中學校長其他蠶絲同業組合長農會職員等の臨席あり各演說祝詞ありて頗る盛況なりし

◎地方委員の囑託

本會規則第二十二條に依り左の諸氏に地方委員を囑託したり

神奈川縣	佐野　安太郎	大阪府	橋本　亮
兵庫縣	山崎　久米藏	長崎縣	貞方　嘉吉郎
群馬縣	萩原　鎌太郎	群馬縣	柿沼　平吉
千葉縣	石田　城之助	茨城縣	廣江　嘉平
愛知縣	增子　德之助	靜岡縣	依田　佐二平
靜岡縣	寺尾　昌太郎	靜岡縣	矢田部　強一郎
滋賀縣	布施　孫一郎	滋賀縣	東部　善平
岐阜縣	町田　治助	長野縣	尾澤　琢郎
長野縣	桂之進	岩手縣	片岡　秀之助
青森縣	羽田　彌三郎	秋田縣	浦部　嘉四郎
石川縣	坂本　成次郎	鳥取縣	谷岡　熊次郎
岡山縣	森　勇吉	岡山縣	逸見　寅雄
廣島縣	坪田　義三郎	愛媛縣	益田　三郎
福岡縣	白水　道夫	佐賀縣	最所　勝三郎

（參照）

第二十二條　地方委員は會長に於て支部の設置なき地方の會員中名望ある者より選み本會の擴張に關する事務を囑託するも

のとす

◉名譽通信委員及通信委員の囑託

本會規則第二十一條に依り左の諸氏に名譽通信委員及通信委員を囑託したり

名譽通信委員

米國紐育　内田定槌　佛國里昂　山田忠澄
清國上海　小田切萬壽之助　朝鮮京城　加藤増雄

通信委員

獨逸　農學博士鈴木梅太郎
米國　林鶴太　米國　澤辰司　開口八重吉
羅蘭　外山龜太郎　羅蘭　細谷善助
清國武昌　中西留應　同杭州　前島次郎
同杭州　西原德太郎　同同　關貞江
同上海　轟木長

（參照）

第二十一條　通信委員は會長に於て海外に在留する會員中より之れを選み蠶絲業上の通信報道を囑託するものとす

但海外に於ける名譽ある學者實業者に對し會長は特に名譽通信委員を囑託することあるべし

◉人事彙報

▲針塚長太郎氏　本會評議員にして技藝委員なる文部省圖書審査官兼高等師範學校教授農學士針塚長太郎氏は今回文部省視學官兼文部省圖書審査官に任し高等官六等に叙し五給俸を下賜せられたり

▲永井米藏氏　本會技藝委員たる永井米藏氏は東京蠶業講習所技師兼生絲檢査所技師に任し高等官七等に叙し九級俸を下賜せられたり

▲石井準次郎氏　は京都蠶業講習所技師に任ぜられ高等官七等に叙し十一級俸を下賜せられたり

▲田島棟平氏　本會技藝委員たる京都蠶業講習所技手田島棟平氏は病氣の處此程遂に死去せられたり

◉特別廣告

本年九月中本會に入會せられたるもの左の如し

○通常會員

京都　荒川鐵藏
同　鹽見貞吉
京都　藤林謙造
同　岡本市之亟
同　西垣藤吉
同　神奈川小俣佐祐
同　足立芳太郎
同　新潟青木國松
同　鹽見彌之助

群馬　藤岡蠶業倶樂部
千葉　眞門小平
茨城　板倉勘助
愛知　梶田鎌藏
同　渡會重助
山梨　中澤德兵衛
同　星野勝陳
滋賀　甲賀郡農會
同　清水傳治郎
岐阜　古田重六
長野　池田健三郎
同　依田宇助
同　矢花正介
同　高遠末次郎
長野　河野助一郎
宮城　渡邊善右衛門
同　遠藤富藏
福島　宮塚富十郎
山形　門間八太郎
富山　宮川健吉
同　高島喜四郎
同　本多菊吉
同　小山鋼太郎
同　高田辰次郎
同　桐谷景輔
同　丸山精治
同　鳥取永田芳太郎
岡山　木代重夫
同　山口村上熊一
同　熊本永井良憲
鹿兒島　林八次郎

計四十一名

右の内にて藤林氏以下五名は京都府支會。小俣氏は増田由之氏。眞門氏は二宮魁松氏。板倉氏は池田信氏。渡會氏は辻鶴太郎氏。中澤星野氏の二氏は今井俊一郎氏。池田氏以下二氏は戸塚已之助氏。渡邊氏は磯部龍次氏。宮川氏以下六氏は富山支會。永田木代の二氏は名和義尖氏孰れも紹介せられ。岡本、青木、藤岡蠶業倶樂部、梶田、甲賀郡農會、清水、古田、高遠、河野、遠藤、宮塚、門間、美濟堂製絲場、村上、永井、林の十六氏は各自に申込まれたり。

京都蠶業講習所長　松永伍作　先生
生糸檢査所技師　今西直次郎先生　共編

絲寶典　珍蠶種和佛伊蒙獨蠶業專門語集　全一冊

顯微鏡使用法　實驗　桑樹栽培改良法　全一冊

蠶體生理　實驗　蠶體生理　全一冊

蠶體病理　附蠶病消毒法及蠶種檢査法　全一冊

製絲法　生絲繭蠶種審査法　全一冊

產繭標本寫眞　世界各國　全一冊

繭生絲解說　來國シカゴ府閣龍世界大博覽會出品　全一冊

演說學　全一冊

東京市神田區美土代町三丁目十四番地　明文堂發兌

丸山舍

開業滿拾五年紀念大割引販賣

除合善大方諸君の深厚なる御愛顧を蒙り業務日增に隆盛に趣き候段感謝不斜候就て本年を以て創業滿十五年に達し候に付き聊か祝意を表する爲め左記割引を以て發賣す幸に御注文の榮を給ひ

品名	普價送料	割引價送料
桑業教科書	一圓卅九錢	一圓十四錢
桑業性精	五圓卅六錢	四圓卅五錢
桑業通俗	八圓卅五錢	六圓卅錢
蠶體生理	壹圓卅錢	八十錢
改訂三版蠶體生理	六圓卅錢	四圓卅錢
改正三版日本蠶病消毒法	七十錢	五十錢
桑樹春切秘訣	八十錢	五十錢
桑樹諸害實驗法	三圓卅錢	二圓卅錢
養蠶便覽	一十四錢	七十錢
歐米蠶業視察談	一圓卅錢	壹圓卅錢
改正農業便覽	四十五錢	三十錢
絲織獨習秘訣	八十錢	五十錢
製絲法	七十錢	五十錢
蠶種消毒法	壹圓卅錢	八十錢
蠶種檢査所技師高橋信眞先生著	壹圓卅錢	八十錢
蠶種檢査所技師高橋信眞先生著	壹圓卅錢	八十錢
蠶種檢査所技師高橋信眞先生著	壹圓卅錢	八十錢
蠶種檢査所技師高橋信眞先生講述	壹圓卅錢	八十錢
蠶種檢査所技師高橋信眞先生講述	壹圓卅錢	八十錢
蠶種檢査所技師高橋信眞先生著

桑樹栽培全書

農學士石渡繁胤先生校閲池田榮太郎君著（新刊）

全壹冊

洋裝背皮金文字入
紙數七百餘ページ
正價壹圓貳拾五錢
小包目方四百匁

桑樹に關する著書少からずと雖概ね其一方に偏する者のみにして全般を詳說したるものなし是れ斯業者の等しく遺憾とする處なり本書は著者の熟年の幸苦を經て之を調査したるものにして筆を桑の沿革に起し苟も桑樹の品種桑園開墾桑樹繁殖耕耘肥培は素より病害蟲除桑園小作法より收穫收支に至る迄詳々詳說して餘す處なし加ふるに石渡農學士の懇篤親密なる校閲を經て公にせる空前の大著述なり當路の士一本を座右に供へて斯業改良の良師友となせ

蠶業叢書

全部拾二冊

既刊目次

第一編　蠶生絲業　正價壹冊參拾錢六冊壹圓七拾錢
第二編　桑樹栽培通論……池田榮太郎君著
第三編　桑樹病害檢査論……三谷徹君共著
第四編　蠶體解剖論……岩淵平介君著
第五編　蠶繭乾燥新論……松下憲三朗君著
第六編　殺蛹法論……三谷徹君著

拾貳冊參圓三十錢郵稅壹冊六錢

發兌元　東京日本橋區本町三丁目　博文館

免疫性津輕春秋蠶種

◎春蠶種小石丸、又昔、青熟、角又、大圓頭

◎秋蠶各種

◎代價　製絲用種全面付壹枚金壹圓五拾錢
原種用種框製百蛾金貳圓五拾錢
◎本舍ハ數多ノ分育所ヲ有シ原繭能多ニシテ撰繭選誠ナキヲ期ス
◎本舍ノ豫約注文ニ對シ貴名内書ハ相當割引ヲナス
◎蠶種ハ豫約申込ハ毎年六月三十日迄トス
俱豫約申込ハ毎年六月三十日迄トス
◎本舍ハ枚數ニ應シ其他壹百枚以上一手豫約注文ノ向ヘハ現場臨檢ノ爲メ
◎本舍ノ共同購入本舍指定ノ旅費日當ヲ支辨スルモノトス
◎本舍ノ蠶種專用ノ方ヘハ不應ノ救濟其他特定ノ義務ヲ負フコトアルベシ
◎本舍ハ便宜ノ豫備金ヲ配置シ非常救濟ノ義務ヲ履行スルモノトス
地方ニ相當ノ官衙若クハ公共團體ヨリ比較飼育トシテ所望アルトキハ五千蛾以内ヲ無代呈
◎本舍ハ送スルコトアルヘシ
◎本舍ノ蠶種ヲ飼育シ其成繭及製絲ヲ以テ各地大小ノ博覽會品評會等ニ於テ受賞アリタルトキハ本舍モ亦銀盃其他ノ賞品ヲ贈呈スルモノトス
◎本舍ハ販路擴張ノ爲メ各地ニ外事係ヲ置キ取引其他一切ノ事ヲ代辨セシムルモノトス
◎本舍ノ外事係希望者ニハ利益配當ノ外規定ノ月額ヲ支給スルコトアルヘシ
◎本舍ヘノ爲替ハ藏館郵便電信局或ハ弘前市五十九銀行受取人ハ水木惣左衛門宛ノコト

〔注意〕本年ノ御注文ハ成ル可ク早ク代金相添ヘ御申込有之度候

青森縣南津輕郡藏館村
津輕蠶業舍
主　水木惣左衛門
特約販賣所　東京五拾貳番地　紙本商店

東京蠶業講習所御編纂

新刊　毋四年度蠶事報告第十八號　賣價一圓八十錢　郵稅十四錢

右例に依るの他に部數至つて少し至急御注文を乞

發賣す凡蠶業界に於ける好指針本書に優

非ざるべし

農商務省農務局御編纂

新刊　第三次全國製絲工場調査表

本書は最近の調査に係るものにして本邦製絲工場の現況を數字的に示せるもの各製絲家の所在地は固より製造器械の別、動力繰糸の別、工女數、繭湯、屑物産出高、百斤に對する製造費、起業年月を明記せるものにして一見蠶絲界の現況を察知せらるべき良著なり

◎賣價金四十五錢◎郵稅金四錢◎

京都蠶業講習所長松永伍作先生著

八版蠶桑實驗說　賣價五十錢　郵稅六錢

再訂增補養蠶術講義　賣價四十錢　郵稅金四錢

小幡信篤先生譯述

四版養蠶論　賣價八十五錢　郵稅金十錢

ハーベル、ランド氏著

信陽油井彌一郎君著

四版夏秋蠶之燈　賣價五十錢　郵稅金四錢

末松格平君著

蠶桑進化論　賣價五十錢　郵稅金四錢

田島棟平君著

蠶桑之眞理　賣價四十八錢　郵稅金六錢

石井民司君著

實用蠶桑書　賣價四十五錢　郵稅金四錢

本多農商務技師閲査

清國蠶絲業調査書　賣價四十錢　郵稅金六錢

吉田健次郎君著

實用製絲術　賣價三十錢　郵稅金四錢

柳澤助五郎君著

生絲製法秘訣　賣價十錢　郵稅二錢

古屋哀晴君著

蠶體生理學　賣價二十錢　郵稅金二錢

青山勘治君著

葉飼育蠶業法　賣價十五錢　郵稅金二錢

信陽上條銀一郎君著

秋蠶種製造法　賣價十二錢　郵稅金二錢

◎發賣書目御入用の方は郵券二錢御送あれ進呈す

發行所　東京京橋區南鞘町二丁目　有隣堂

◎精良蠶種販賣廣告◎

一種類◎白玉（名白繭蠶）◎改良小石丸◎改良白（名島村）◎改良又昔◎改良丸志保◎改良又丸

前掲蠶種ハ天理ノ原則ニ法リ自然ノ道理ニ基キ大氣ノ清通ヲ旨トシ四十餘日間利根川沿岸ノ良桑ヲ以テ飼育シ殊ニ精巧ノ顯微鏡撰種法ト「トリラー」式消毒法トヲ以テ專ラ學理ノ應用ニ隨ヒ病毒ヲ除キタル完全純良ノ蠶種ニ御座候間御購求有之度曾傳習ノ養ハ多年ノ經驗ヲ以テ飼育シ易ク繭質善良纖絲均一絲量最モ多キモノヲ改良慥保セシモノニ御座候儘續々御申込ミ相成度此段養蠶家諸君ヘ拜告仕候

代價◎全面半帖壹枚金壹圓四拾錢◎框製百枚以上壹割引◎拾枚以上壹割引

蛾生金貳圓五拾錢◎農會其他團體等ニ於テ一手ニ多數御購求ノ節ハ特別ニ御相談可仕候

蠶種ハ代金御送附濟ミノ順序ヲ以テ郵送ス◎郵便爲替ハ上野國佐波郡島村局ヘ御振込之事◎蠶種荷造費郵送料ハ弊園ノ負擔ニ候也

群馬縣佐波郡島村勸業社

桑苗園　田島彌平蠶事部

信濃國小縣郡擂尻村

純良眞返桑苗販賣　扶桑園

一年生二年生及毛苗

無毒保證　春蠶種　白龍○中巣○小石丸○青熟蠶蠶於第三回第四回內國勸業博覽會有功賞牌拜受

白龍種元祖　信州小縣郡長瀨村　白龍館

◎夏秋蠶之燈臺

信蠶社

社員及傳習生募集

蠶種製造販賣鑑定

本社は秋蠶の元祖地松本に在て專心斯業の改良啓發に努め贊助員には大日本蠶絲會技藝委員を始め百餘名の蠶業大家あり

夏秋蠶業傳習生募集

秋蠶種特約販賣人

信州東筑摩郡本郷村字横田

信蠶社主幹　鳥羽久吾

桑苗

例年之通り精良苗各種販賣仕候代價目錄書は御申越次第早速郵送仕候

埼玉縣兒玉郡丹莊村植竹桑苗製作所

蠶具販賣所　博榮館

別項割引券相添申込壹割引

蠶種貯藏器販賣廣告

蠶種貯藏の忽にすべからざるは多年西ヶ原蠶業試驗場に於ける試驗に徴し又當業者の實驗に照らし瞭かに今更喋々を要せず本器は圓田技手が苦辛ハ末發明せる所にして其便にして完全に實用的に構造せる内外側は金屬張とし堅牢美麗の着色塗を施し外氣の變化は勿論炭酸瓦斯或は濕氣等の爲め聊か彼害を凝らし構造せる安全貯藏器なれば冬季を無事越冬なし以て蠶業家諸君に御注文を希ふ

○代金　壹個　金五拾錢
○賣捌　壹個　金十錢
○運賃　十個百枚入四十錢
○送料　十個百枚入二十錢
○仕切　十個別式製は別に荷造費を申受く
○送料　十個百枚入二十錢
○東京市日本橋區濱屋町十四番地　丸山舍本店　東京市日本橋區濱屋町十四番地　大阪支店

農藝新報

毎月五日一回發行　一ヶ月分　郵税共　六拾錢　郵税共　六拾錢　年分　郵税共　壹圓貳拾錢

特色

國利民福ノ增進スルヲ目的トス

社説

博士學士其他老練家諸氏ニ乞ヒ有益ナル論説議話、演説、等ヲ記シ紙面ヲ卓越ス

論説

專ラ實業振作奬勵ニ任ス殊ニ農學ノ地位ヲ進メ其本旨振作ヲ期シ

實驗

實驗報告、實驗結果、實驗ノ研究及和漢學書ヲ載ス

家庭

必要ニ應ジ各項ニ記事ヲ掲載ス特ニ婦人ノ裁縫ヲ乞フモノトス

調査

詳細ニ和漢學アラシム

雜報

實業界ニ關スル事項ヲ掲載ス特ニ婦人ノ裁縫ヲ乞フモノトス

廣告

實業家庭ニ關スル事項ヲ掲載ス

見本

拾錢　初旬十月五日發行

發行所　農藝新報社

京都市大宮通三哲北入廿二番戸

郵券六錢ニテ送付ス十月三十日迄定年分前金御送付御申込ニ限リ特別五割引

郵券六錢ニテ送付ス十月三十日迄定年分前金御送付御申込ニ限リ特別五割引

蠶種製造所

主任　古坂仁太郎

蠶種貯藏器販賣廣告

本品製造ハ當社ノ專有ニ屬シ

津輕蠶種

テシ免疫性ヲ有ス

蠶兒ノ天性ニ則リ豊富ノ体質ヲ保ツテ其發育ヲ促シ蔟ニ多ナル蠶繭ニ對シ精緻ノ選擇ヲ行ヒ尚ホ蛹蛾ヲ檢スル上地ハ森林ニ富ミ氣常ニ爽天候亦寒冷淘ニ良種ヲ生作スルコト天賦ノ好適ノ備フレハナリ

豫約割引販賣廣告

卵・質・特・ニ・剛・健・ニ

○種類　小石丸・又昔・青熟・大圓頭

○代價　製絲用　壹枚　金壹圓貳拾錢　繭用　百繭　金貳錢

○豫約割引　以上同上千繭以上五千繭以上五分引　同上三千枚以下千繭以下三割同上拾枚

○豫約申込期限　毎年六月十五日ス

○豫約申込ノ要領若シ中種希望ニ申込ヲ以テ代金ハ送料ヲ加ヘ郵送ス

○代金　申込ノ要領若シ中種希望ニ申込ヲ以テ代金ハ送料ヲ加ヘ郵送ス

○蠶種發送　毎年九月旬ノ申込順序ニ依リ小包郵送ス荷造費郵送料ハ切本場ノ負擔トス

○官衙、學校、講習所、試驗場、縣、郡農會其他公共團体ヨリ比較飼育トシテ所望アルトキハ一千蛾以内ヲ無代贈呈スルモノトス

蠶種販賣

例年之通來る十月二十日以降本館農園培養種類正確生育請合精良桑苗各種掘立御賣下度候但品切ゝ成らざる内御申込賣捌ス

桑苗大販賣

近來桑園高木仕立の有効説諸學者實業家間に於て盛なること敢て説明を要せず君の熟知せ處本館は殊に適當專用なる三種を培養し諸産の御用命に應じ可申候葉形至大摘取容易收穫多量年を經るに從ひ蚕參拾貫乃至七八拾貫收葉好評あり特に種苗部に於て卸小賣仕候

御注意

なく大々的廣告をなし注文を記し店に一本の培養した者をば受書販賣し大に世人を瞞着て他人の培養したる本館には特に自園培養精良品のみ販賣不仕候に付御安心之上陸續御申込御注文を乞ふ

高木仕立專用苗

種類

○中生種　○晩生種　○早生種　○中高助　○石之外　○鼠返　○鳥骨桑　○鳥村　○丸葉　○龍　○市平　○桑胡　○十文字　○細江　○伊達　○赤木　○山　○各種培養有之乞御照會

秋蒔種子

郵券三錢御送附に限り無代送呈ス

苗木定價表

種子苗木農具蠶器肥料種魚

内外商

學校御用達

京都市大宮三哲北入

利世舘

上毛の蠶種家

上毛蠶館

免疫性◎蠶種

十木良助

群馬縣多野郡大小新町二種

又昔

YAEHIME
SILK-WORM-EGGS
Produced
BY
JITSURIOKU-KWAN.
Unoke, Kahoku. Kagu,
Japan.

春蠶種
八重姫

◎中國全は姫重八◎
◎る限に館力實◎

實力館
加賀河北郡ウノケ

春蠶種

又昔角又

上掲二種類ノ外本年ヨリ小石丸モ製出販賣致候營業案内書ハ御一報次第御送可申候
農會其他團體ニ於テ一手ニ多數御購入ノ節ハ特別ニ御相談可仕候

長野縣小縣郡鹽尻村　佐藤八郎右衛門

春蠶
夏蠶種

白玉　白姫　又昔
改良大草

右原種用種及製絲用種共此際豫約割引價ヲ以テ御注文ニ可應候間御入用ノ諸君ハ至急御申込被下度候

茨城縣結城郡上山川村　櫻井佐十郎養蠶場

興文社編輯所編

農業蠶業關係者實典出版廣告

現行農業法規全書

洋裝背クロース　全一冊

○紙數五百頁定價金七十錢○郵稅金十二錢

本書ハ現行農業ニ關スル諸般ノ法令ヲ網羅編纂セルモノニシテ近來農事ノ改良及發達ニ伴ヒ準據スベキ法令ヲ加ヘタレバ各項目ニ依リテ之ヲ統合シタリ苟モ農事ニ關係アル各種實業家ハ勿論農學校、農事試驗場、農會、役場等ニ職ヲ奉ズル諸君ノ日常座右好伴侶タルベキモノナリ（本年七月マデノ法令ヲ蒐集ス）

農學士本多岩次郎先生校閲　小島道治先生著

製本既成

蠶體病理教科書

洋裝總クロース本綴　全一冊
定價金五拾五錢　郵稅八錢

農學士　菊地士之助先生校閲　小島道治先生著

蠶體生理教科書

洋裝總クロース本綴　全一冊
定價金五十五錢　郵稅金八錢

右兩書ハ文部省開設ノ全國農學校長會議ニ於テ調査セラレタル教授要項ニ法リ、著者ガ多年ノ經驗ニ依リテ編纂セラレタルモノニシテ事實ヲ擧クルコト的切、學理ヲ述ブルコト精確、加フルニ平易簡明ナル文章ヲ以テシ、讀者ヲシテ毫モ渋滯ナカラシムルコト他ニ其ノ類ヲ見ザル所ナリ、故ニ農學校蠶業學校、蠶業傳習所、蠶業講習會ノ教科書トシテ最モ適當ナルノミナラズ、亦實地ニ養蠶ニ從事セルモノヽ良師範タルコト疑ヲ容レザルナリ

發行所

東京市日本橋區馬喰町二丁目一番地　興文社

大日本蠶絲會下野支會第三回蠶種繭品評會開催廣告

本會第三回蠶種繭品評會來ル十一月廿二日ヨリ三日間栃木縣安蘇郡界村大字馬門二番地ニ於テ開催ス（日本鐵道兩毛線佐野驛ニテ下車同驛ヨリ經便鐵道アリ）

大日本蠶絲會員諸君ハ勿論篤志者ハ奮テ出品アラソコトヲ望ム

但シ出品來ル十一月十五日限リ目錄ヲ添ヘ安蘇郡界村大字馬門品評會事務所ニ送付セラルヘシ

出品數量左ノ如シ

繭　壹升

蠶種　壹枚

普通製　貳枚

框製

明治三十五年十月

大日本蠶絲會下野支會

田島棟平君病氣の處療養不相叶本月八日死去相成候此段同君生前の知友諸君に謹告候也

明治三十五年十月

京都蠶業講習所

友人一同

東京蠶業講習所技師本多岩次郎先生の嚴父御病氣の處本月十七日遠逝相成候條此段謹告候也

明治三十五年十月

西ケ原同窓生一同

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES REPARTIES EN DIVERSES INDUSTRIES.

(Septembre 1902.)

	Report.	Brought over.	Arrivé.	Arrived.	Vendu.	Sold.	Exporté.	Exported.	Renvoyé.	Sent back.	A reporter.	Brought forward.
Filature.	4.842	*Piéd.*	8.383	*Piéd.*	8.180	*Piéd.*		*Piéd.*	193	*Piéd.*	4.849	*Piéd.*
Filature.	2.141		2.573		2.390				1		2.323	
Zegami.	739		1.595		763						201	
Retsel.												
Kakeda.												
Orihayshi.												
Autres.	108		14		11		10.979		197		9.095	
Other.												
Total.	7.914		12.605		11.344							
1901.	7.442		10.147		5.087		6.395		244		11.632	

TABLE OF MOVEMENT OF SILK IN DIFFERENT INDUSTRIES.

(September 1902.)

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTIES PAR JOURS.

DAILY TABLE OF MOVEMENT OF SILK.

Jours. Days.	Soie. Silk. Arrivée. Arrived.	Vendue. Sold.	Renvoyée. Sent back.	exportée. Exported.	Prix moyen. Standad Price. Filature. Hosoito. Extra. No. 1	Filature. Futoito. Extra. No. 1	Zaguri. Bereels. Extra. No. 1	Kakeda. Orikayoshi. Extra. No. 1	Maximum du prix. Highest prices. Noms des filateurs. Names of filaturs.	Prix. Prices.
	Piculs.	*Piculs.*	*Piculs.*	*Piculs.*	*yen yen*	*yen yen*	*yen yen*	*yen yen*		*yen*
1	525	316	5		1010. 980.	1005. 980.	980. 955.	925. 895.	Iwakunisei shikwaisha	1020
2	323	259		1,094	1010. 980.	1005. 980.	980. 955.	925. 895.	Kubotakan.	1005
3	379	573			1010. 980.	1005. 980.	980. 955.	925. 895.	Nipponkan.	990
4	467	200	50		1010. 980.	1005. 980.	980. 955.	930. 900.	Umesangiosha.	1020
5	352	300	28	1,313	1010. 980.	1005. 980.	980. 955.	930. 900.	Kagoshimakiodonizu kurisho	1010
6	354	222	2	1,136	1010. 980.	1005. 980.	980. 955.	930. 900.	Yoneyaseishijō.	1010
7										
8	625	579	4		1010. 980.	1005. 980.	980. 955.	935. 905.	Takakiseishikwaisha.	1030
9	467	219	8		1010. 980.	1005. 980.	980. 955.	935. 905.	Hisuisha.	1035
10	356	248	4	1,136	1010. 980.	1005. 980.	980. 955.	935. 905.	Kumamotoseishi kwaisha	1000
11	485	293	1		1010. 980.	1005. 980.	980. 955.	935. 905.	Nagaigumi.	1015
12	467	211	4	478	1010. 980.	1005. 985.	980. 955.	945. 900.	Shimizusha.	990
13	360	353	4		1010. 980.	1005. 990.	985. 960.	945. 910.	Hiataseishijō.	1060
14										
15	999	709	8		1015. 985.	1015. 995.	995. 970.	945. 915.	Matsubaken.	1030
16	571	1,217			1015. 985.	1015. 995.	995. 970.	945. 915.	Kinkwasha.	1020
17	513	878	24	20	1015. 985.	1015. 995.	995. 970.	945. 915.	Shinyōkan.	1100
18	424	323	3		1030. 1000.	1025. 995.	995. 970.	945. 915.	Hisuisha.	1040
19	542	476			1030. 1000.	1025. 995.	995. 970.	945. 915.	Tenriukawasha.	1045
20	362	458	10	3,398	1030. 1000.	1025. 995.	995. 970.	945. 915.	Okawasha.	1030
21										
22	542	568	7		1045. 1020.	1030. 1000.	1000. 975.	945. 915.	Atakoseishikwaisha.	1050
23	565	360		1,000	1045. 1020.	1030. 1000.	1000. 980.	945. 915.	Igarashiseishijō.	1025
24		196							Nagaigumi.	1065
25	707	301	11	255	1060. 1035.	1050. 1020.	1005. 982.½	945. 915.	Tsukamotoseishijō.	1050
26	764	427	3	281	1060. 1035.	1050. 1020.	1010. 990.	945. 915.	Niishinsha.	1050
27	442	543	2	749	1060. 1035.	1050. 1020.	1010. 990.	945. 915.	Saitamaseishikwaisha.	1080
28										
29	472	383	7		1060. 1035.	1050. 1020.	1040. 1000	945. 915.	Mitsukeseishikwaisha	1060
30	543	702	12	99	1060. 1035.	1050. 1020.	1040. 1000.	945. 915.	Hirataseishijō.	1085
	12,666	11,344	197	10,979						

1 *yen* vaut envion fr. 2.50. 1 Picul = 60 kilg. environ.

	Healthy.	Diseased.
Average length of 1 stem	150.	75.
Total fresh weight of stems	175.5	120.
Average fresh weight of 1 stem	58.5	12.00
Total dry weight of stems	51.566	32.277
Average dry weight of 1 stem	17.188	3.328
Moisture in stems	70.60	72.27
Dry matter in stems	29.40	27.73
Total fresh weight of leaves	159.	129.
Average fresh weight of 1 leaf	1.178	0.345
Total dry weight of leaves	55.266	47.534
Average dry weight of 1 leaf	0.409	0.127
Moisture in fresh leaves	65.24	63.12
Dry matter in fresh leaves	34.76	36.
Number of leaves on 1 stem	45.	73.
Dry matter in leaves of 1 stem	18.422	4.753

In 100 parts of dry matter,

	Healthy.		Diseased.	
	Leaves.	Stems.	Leaves.	Stems.
Crude proteids	22.38	5.31	16.50	5.44
Crude fats	7.29	1.00	6.72	1.30
Crude fibres	9.32	59.00	9.73	56.20
Nitrogen-free extracts	50.88	30.36	60.50	33.19
Ash (free from carbon and sand)	10.13	4.33	6.55	3.87
Total nitrogen	**3.58**	**0.85**	**2.64**	**0.87**
Albuminoid nitrogen	**3.10**	**0.57**	**2.32**	**0.66**
Non-albuminoid nitrogen	**0.48**	**0.28**	**0.31**	**0.21**

(To be continued.)

Marché des Soies.

MARCHÉ DE YOKOHAMA.

Citons sommairement la situation de notre marché au mois du Septembre, 1902.

Pendant les dix premiers jours, les transactions ont été très nombreuses et la grège dite *Zagwi* (de Joshu) a pu bénéficier d'une hausse de 5 *Yen*. Dans la dizaine suivante, les demandes nouvelles venues successivement de toutes parts ont fait traiter souvent de grosses affaires et les prix sont devenus de plus en plus fermes.

Pendant la dernière dizaine, le mouvement d'affaires se continue sans changement; mais aux derniers jours, le marché a perdu un peu de son activité.

La grège qu'on a pratiquée au plus haut prix (*Yen* 1.100 per picul) a été celle qui est fabriquée par *Shingokwan* à Shinshu.

Voici d'ailleurs les tableaux indiquant le mouvement des soies durant la période du 1er à 30 Septembre 1902.

—+*+—

Raw Silk Market.

MARKET OF YOKOHAMA.

The condition of the market in September 1902:—

During the first 10 days the transaction was very active, and the price of Joshyu *Zagwi* (reels) rose by 5 *yen*. During the middle 10 days orders having been received from abroad, large transactions were made; and consequently the price continued high. The market maintained this favorrable condition until nearly to the latter part of the month, when it became somewhat dull.

The Shinyokwan's (Shinshū) was sold at 1.100 *yen* per picul, which was the highest price bid during the month.

The following list shows the movement of raw silk in the month of September 1902.

—+*+—

In 100 parts of dry matter,

	Healthy.		Diseased.	
	Leaves.	Stems.	Leaves.	Stems.
Crude proteids	22.88	5.38	20.25	10.07
Crude fats	7.34	1.10	4.34	1.57
Crude fibres	**9.59**	**54.60**	**7.11**	**50.54**
Nitrogen-free extracts	52.42	34.58	60.88	32.56
Ash (free from carbon and sand)	7.77	4.34	7.42	5.27
Total nitrogen	**3.66**	**0.86**	**3.24**	**1.61**
Albuminoid nitrogen	**3.37**	**0.54**	**2.98**	**0.98**
Non-albuminoid nitrogen	**0.29**	**0.32**	**0.26**	**0.63**

In 100 parts of ash (free from carbon and sand)

	Healthy.		Diseased.	
	Leaves.	Stems.	Leaves.	Stems.
SiO_2	1.35	0.94	1.54	1.36
SO_3	1.22	2.00	1.90	4.00
P_2O_5	6.41	8.90	6.10	8.74
K_2O	19.20	39.60	18.10	34.90
CaO	40.28	18.80	35.54	16.62
MgO	13.78	7.04	18.65	12.46

9. Jūmonji July 9, 1898.

	Healthy.	Diseased.
Number of shoots	36.	48.
Number of leaves	261.	547.
Average length of 1 shoot	16.5	12.
Total fresh weight of shoots	90.	48.7
Average fresh weight of 1 shoot	2.50	1.02
Total dry weight of shoots	10.765	5.532
Average dry weight of 1 shoot	0.299	0.115
Moisture in shoots	88.04	88.60
Dry matter in shoots	11.96	11.40
Total fresh weight of leaves	256.20	136.15

	Healthy.	Diseased.
Average fresh weight of 1 leaf	0.215	0.249
Total weight of leaves	29.425	13.605
Average dry weight of 1 leaf	0.113	0.025
Moisture in fresh leaves	88.50	90.00
Dry matter in fresh leaves	11.50	10.00
Number of leaves on 1 shoot	7.	11.
Dry matter in leaves of 1 shoot	0.817	0.284

In 100 parts of dry matter,

	Healthy.		Diseased.	
	Leaves.	Shoots.	Leaves.	Shoots.
Crude proteids	36.63	21.75	32.50	26.65
Crude fats	4.26	2.20	8.08	2.54
Crude fibres	**11.04**	**36.72**	**9.56**	**27.67**
Nitrogen-free extracts	37.67	31.85	45.04	31.52
Ash (free from carbon and sand)	10.40	7.48	9.82	11.64
Total nitrogen	**5.86**	**3.48**	**5.20**	**4.26**
Albuminoid nitrogen	**4.18**	**1.47**	**4.10**	**1.79**
Non-albuminoid nitrogen	**1.68**	**2.01**	**1.10**	**2.47**

In 100 parts of ash (free from carbon, carbonic acid, and sand)

	Healthy leaves.	Diseased leaves.
SiO_2	1.90	2.10
SO_3	2.43	2.70
P_2O_5	20.40	20.60
K_2O	23.63	24.66
CaO	28.10	26.77
MgO	8.85	12.56

10. Jūmonji September 9, 1898.

	Healthy.	Diseased.
Number of stems	3.	10.
Number of leaves	135.	374.

CONTENTS.

Opinions:

Summary of filature in China and Korea. . . *Nogakuhakushi*, T. Sakoh.
On the immediate necessity of the establishment of an office for the investigation of the business of filature . . . . . M. Ono.
On the factory law . . . . . K. Haneda.
On the influence which affects cocoons by a slight diminution of temperature in nursery rooms for silkworms of 5 age. . . . Lambert.
On the relation of silkworm disease and the quality of larva . . . . . *Nogakuhakushi*, D. Hayashi.
On the examination of cocoons produced in Spring, Summer, and Winter . . . . . Y. Tanaka.
The increment of the density of moisture tends the spreading of silkworm disease . . . . . K. Tamura.
Report of investigation on the mulberry-dwarf troubles . . . . . *Nogakuhakushi*, U. Suzuki.

Miscellaneous:

Report of silk conditioning house in Milan (On silks damaged in the course of transportation.)
Examination of the Fuuketsu at Suwa in Shimane Ken.
Boilers used by the spinners in the Nagano Ken district.

Statistics:

List of comparison showing the export and import of raw-silk and silks during the month of August 1902 and the corresponding month of the previous year.
Amount of production of raw-silk, floss-silk, etc;

Question-Box:

Query and answer re mulberry tree.
Query and answer re examination of quantity of carbonic acid gas contained in silknursery.
Query and answer re silk, mulberry tree, etc.
Query and answer re mode of hibernating silkworm-eggs in the Fuuketsu, etc.
Query and answer re silkworm diseases.
Query and answer re perished silkworm.
Query and answer re reproduction.
Query and answer re dissecators.

Raw silk Market:

Yokohama market.
New York „
Lyon „
Shanghai „

Foreign News:

Sericulture in America.
Estimated quantity of cocoons to be produced in Japan and foreign countries during the current year.
Sericulture in Siam.
Silk rearing industry Chung-King, China.
Quantity of silk thread consumed in Europe and America.

General News:

Silk tax, etc.

Contributions. Opinions.

Report of Investigations on the Mulberry-Dwarf Troubles—a Disease widely spread in Japan.

BY

Nogakuhakushi **U. Suzuki.**

(*continued*)

INTRODUCTION.

8. TAKASUKE. SEPTEMBER 9, 1898.

	Healthy.	Diseased.
Number of stems	4.	4.
Number of leaves	143.	1056.
Average length of 1 stem	180.	90.
Total fresh weight of stems	403.	145.
Average fresh weight of 1 stem	101.	365.
Total dry weight of stems	118.25	44.24
Average dry weight of 1 stem	29.56	11.06
Moisture in stems	70.66	69.49
Dry matter in stems	29.34	30.51
Total fresh weight of leaves	367.5	172.00
Average fresh weight of 1 leaf	2.57	0.162
Total dry weight of leaves	124.08	81.35
Average dry weight of 1 leaf	0.868	0.076
Moisture in fresh leaves	66.23	52.70
Dry matter in fresh leaves	33.77	47.30
Number of leaves on 1 stem	36.	266.
Dry matter in leaves of 1 stem	31.02	20.34

大日本蠶絲會報第百貳拾四號

明治廿五年四月七日內務省認可（明治三十五年十月二十五日發行）

明治廿五年第三種郵便物認可（毎月一回廿五日發行）

BULLETIN
DE
L' ASSOCIATION SÉRICICOLE DU JAPON.

No. 124.

25 Octobre 1902.

SOMMAIRE.

Contributions :

Industrie soyeuse en Chine et en Corée . . . *Nogakshakoshi*, T. Saito.
Nécessité urgente de la création des commissions d'enquête de l'industrie soyeuse . . . . . M. Ono.
Projet de Loi concernant la Manufacture. . . . . K. Baneda.
Influences d'une faible diminution de la chaleur pendant les derniers jours de l'élevage sur les cocons . . . . . F. Lambert.
Relation entre la maladie des vers et la nature de leurs corps . . . . . *Nogakushi*, D. Hayashi.
Sur l'examen des cocons du printemps, de l'été et de l'automne . . . . . U. Tanaka.
L'augmentation de l'humidité répand la maladie des vers. G. Tamura.
Sur la maladie des mûriers-nains (en Anglais) . . . . . *Nogakdakushi*, U. Suzuki.

Essais et faits divers :

Extrait du Rapport de la Laboratoire d'études de la Soie à Milan. (Sur les tissus de soie avariés pendant le transport.)
Investigation de *Fookelsu*. (Fookétsu de Suwa, à la préfecture de Shimané.)
Machine à vapeur de la filature de Naganoken.

Statistique :

Tableau comparatif de l'exportation et de l'importation des soies et des soieries dans les mois d'Août de l'an 1902 et 1901.
Quantité de la production de soie, de bourre de soie et de graine.

Questions et Réponses :

Sur le mûrier.
Sur le mesurage du gaz d'acide carbonique dans la magnanerie.
Sur l'alimentation, etc.
Sur la méthode de l'hibernation dans le *Fookelsu*.
Sur la maladie des vers, etc.
Sur les vers morts.
Sur le grainage.
Sur le Séchoir des cocons.

Marché des Soies :

Marché de Yokohama.—Marché de New York.—Marché de Lyon.—Marché de Shanghai.

Nouvelles étrangères :

La Sériciculture en Amérique.
Evaluation de la récolte des cocons du Monde en cette année.
L'industrie soyeuse au Siam.
L'industrie soyeuse en Chungkingfu (Chine).
La consommation des soies en Europe et en Amérique.

Nouvelles diverses :

Droits des soieries. etc. etc. etc.

TOKYO

Association Sériricole du Japon. No. 2. Mitoshirocho, Sanchome, Kanda, Japon.

（東京市神田區淺草代町三番地印行）